

指宿市のまちづくりに関するアンケート
(20年後の未来のために) 調査結果

【単純集計・クロス集計】

令和5年1月

指宿市

目 次

I 調査概要.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 回収状況.....	1
4. 調査項目.....	2
II 調査結果の概要.....	4
1. 属性.....	5
2. 居住・防災.....	8
3. 日常生活の施設.....	20
4. 公共交通.....	22
5. 今後のまちづくり.....	30
【全体】	
6. 自由意見.....	34

I 調査概要

1. 調査目的

「指宿市立地適正化計画」の作成に向けて、アンケート調査により、主に【居住・防災】、【日常生活の施設】、【公共交通】、【今後のまちづくり】に関する住民意向を把握し、将来におけるこれらのあり方を検討することを目的とする。

2. 調査方法

以下に調査方法の概要を整理する。

① 対象地域	指宿市全域
② 対象者	市内に居住する18歳以上の男女 2,000名
③ 調査方法	郵送による調査票の配布・回収、 または案内文に標記したQRコードからのweb回答
④ 調査期間	令和4年11月1日(火)～12月6日(火)

3. 回収状況

配布数2,000票に対し、回収数は686票、回収率は34.3%であった。

【全体】

配布数	回収数	回収率
2,000票	686票 (郵送：526票、Web：160票)	34.3%

【校 区 別】

校区名	回収数	校区名	回収数
丹波校区	178票	川尻校区	25票
柳田校区	132票	今和泉校区	22票
指宿校区	78票	池田校区	18票
大成校区	56票	徳光校区	17票
開聞校区	55票	利永校区	15票
山川校区	46票	不明	13票
魚見校区	31票	—	—

4. 調査項目

本調査では、以下のような設問項目により、市民意向の把握を行った。

設問番号	項 目	設問形式
1. 属性		
問1	回答者の性別	SA
問2	回答者の年齢	SA
問3	回答者の指宿市の居住年数	SA
問4	回答者の住宅の形態	SA
問5	回答者の家族構成	SA
問6	回答者の居住地域	FA
2. 居住・防災		
問7	現在の居住地域に住み続けたいか	SA
問8	住み続けたい理由	MA
問9	住み替えたい又は住み替える予定がある場所	SA
問10	住み替えたい又は住み替える予定がある理由	MA
問11	回答者の居住地域における災害対策の必要性	—
1	地震対策	SA
2	津波対策	SA
3	台風・洪水対策	SA
4	土砂災害対策	SA
5	道路・橋の整備	SA
6	避難路の整備	SA
7	住宅地整備	SA
8	既存の情報通信手段の普及	SA
9	新たな情報通信手段の普及	SA
10	新たな避難所・避難ビルの新設	SA
11	組織活動の充実	SA
12	市民の意識の向上	SA
3. 日常生活の施設		
問12	回答者の居住地域の中心部について	MA

※設問形式の凡例は以下のとおり

SA : Single Answer (単数回答) / MA : Multiple Answer (複数回答) / FA : Free Answer (自由回答)

4. 公共交通		
問 13	公共交通を利用する頻度	SA
問 14	公共交通に対する満足度	SA
問 15	指宿市全域で必要と思う公共交通の取組	SA
5. 今後のまちづくり		
問 16	コンパクトシティ・プラス・ネットワークによるまちづくりの必要性	SA
問 17	指宿市の今後のまちづくりについて重視すべきこと	MA
6. 自由意見		
問 18	まちづくりに関する意見	FA

※設問形式の凡例は以下のとおり

SA : Single Answer (単数回答) / MA : Multiple Answer (複数回答) / FA : Free Answer (自由回答)

Ⅱ 調査結果の概要

調査結果については、単純集計【全体】、各地区とのクロス集計【校區別】、各年代とのクロス集計【年齢別】の3種類の整理を行った。

設問別の回答結果について、【全体】、【地区別】、【年齢別】に整理する。

なお、設問項目の「1. 属性」は、【全体】と同様な内容であるため、【校區別】及び【年齢別】は掲載しないこととする。

また、設問項目の「6. 自由意見」については、【全体】のみ整理している。

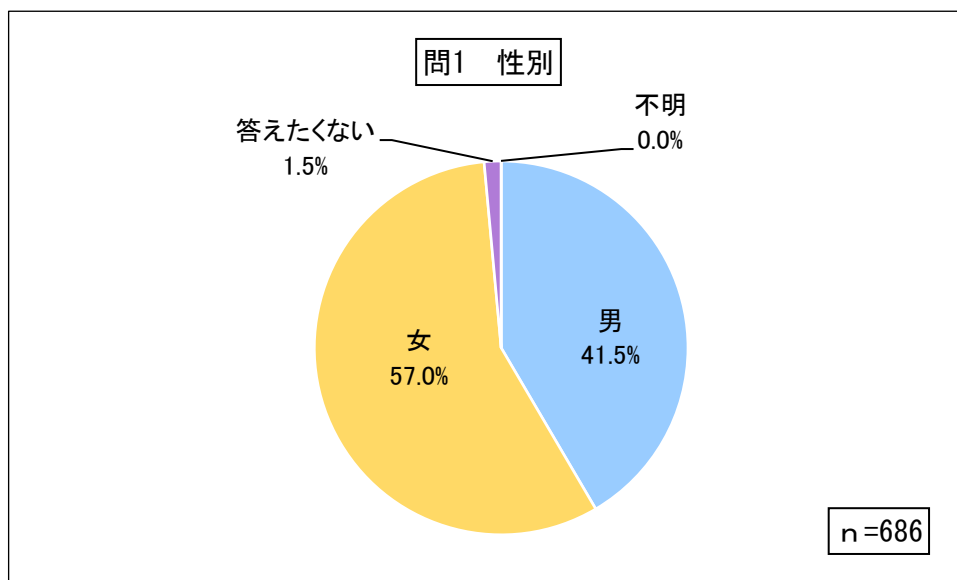
次頁より、調査結果を掲載する。

1. 属性

問1 あなたの性別を教えてください。(番号1つに○)

【全体】

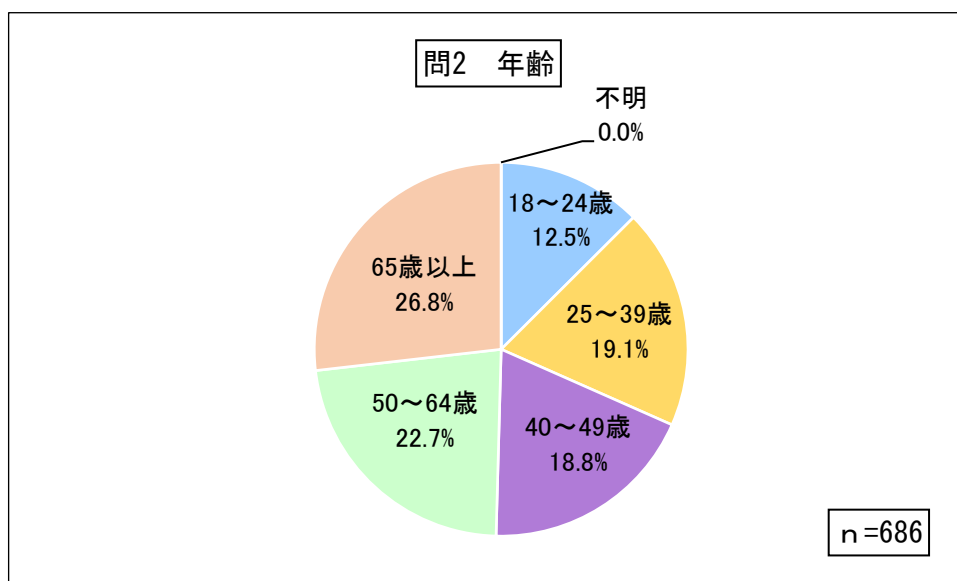
性別構成は、「女」が57.0%と多く、「男」が41.5%、「答えたくない」が1.5%であった。



問2 あなたの年齢を教えてください。(カッコ内に年齢を記入)

【全体】

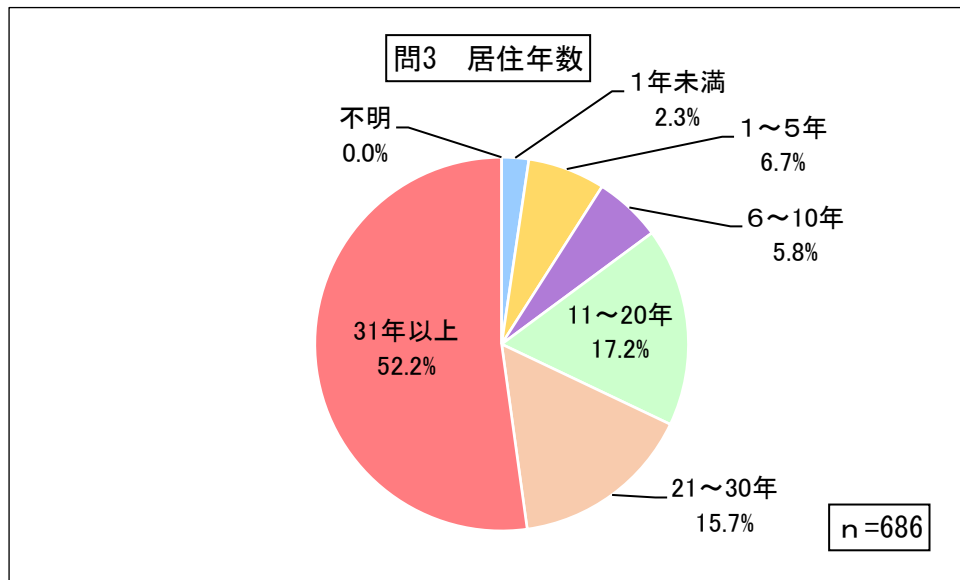
年齢別構成は、「65歳以上」が26.8%と最も多く、次いで「50～64歳」が22.7%、「25～39歳」が19.1%、「40～49歳」が18.8%、「18～24歳」が12.5%であった。



問3 あなたは指宿市に何年お住まいですか。(番号1つに○)

【全体】

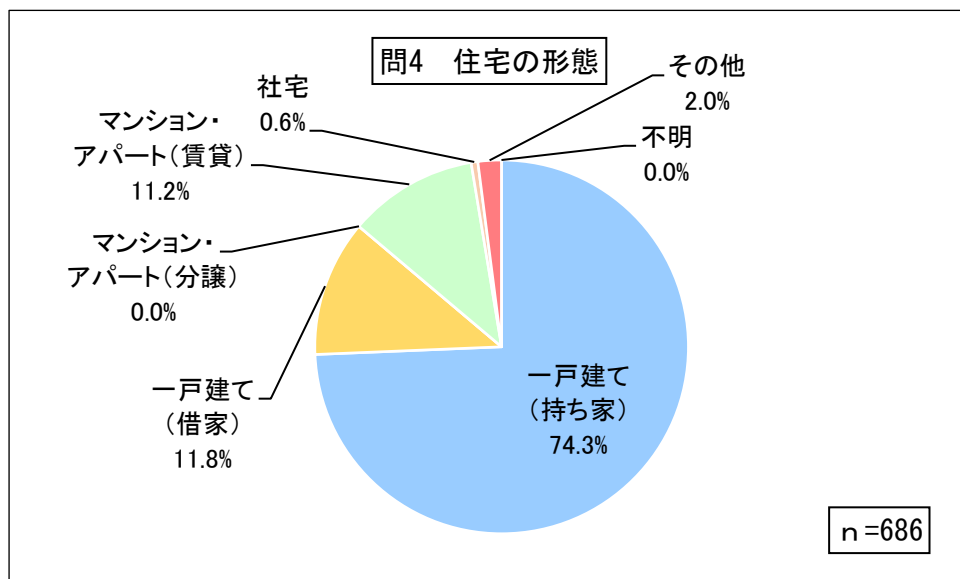
「31年以上」が52.2%と最も多く、次いで「11～20年」が17.2%、「21～30年」が15.7%、「1～5年」が6.7%、「6～10年」が5.8%、「1年未満」が2.3%であった。



問4 お住まいの住宅の形態について教えてください。(番号1つに○)

【全体】

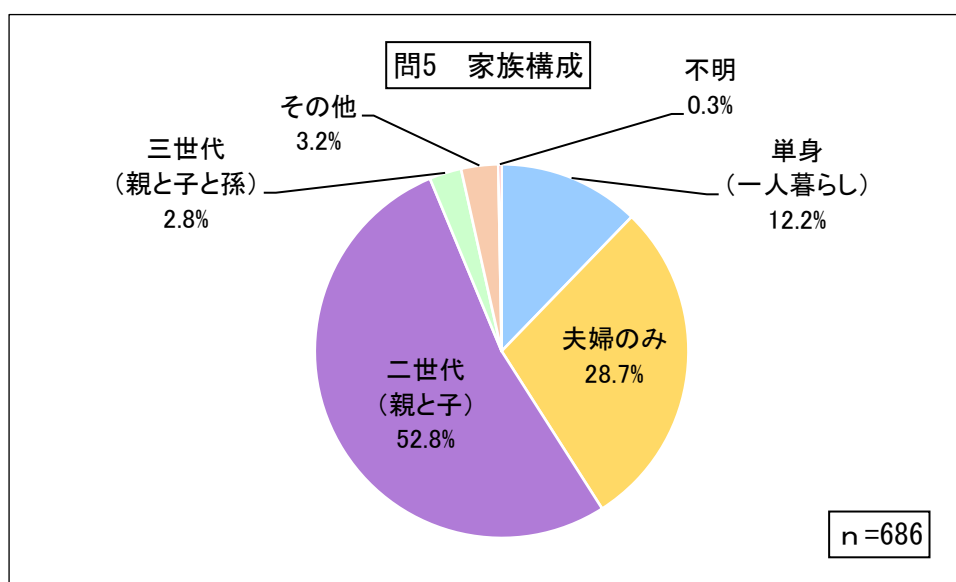
「一戸建て（持ち家）」が74.3%と最も多く、次いで「一戸建て（借家）」が11.8%、「マンション・アパート（賃貸）」が11.2%、「その他」が2.0%、「社宅」が0.6%、「マンション・アパート（分譲）」が0.0%であった。



問5 家族構成について教えてください。(番号1つに○)

【全体】

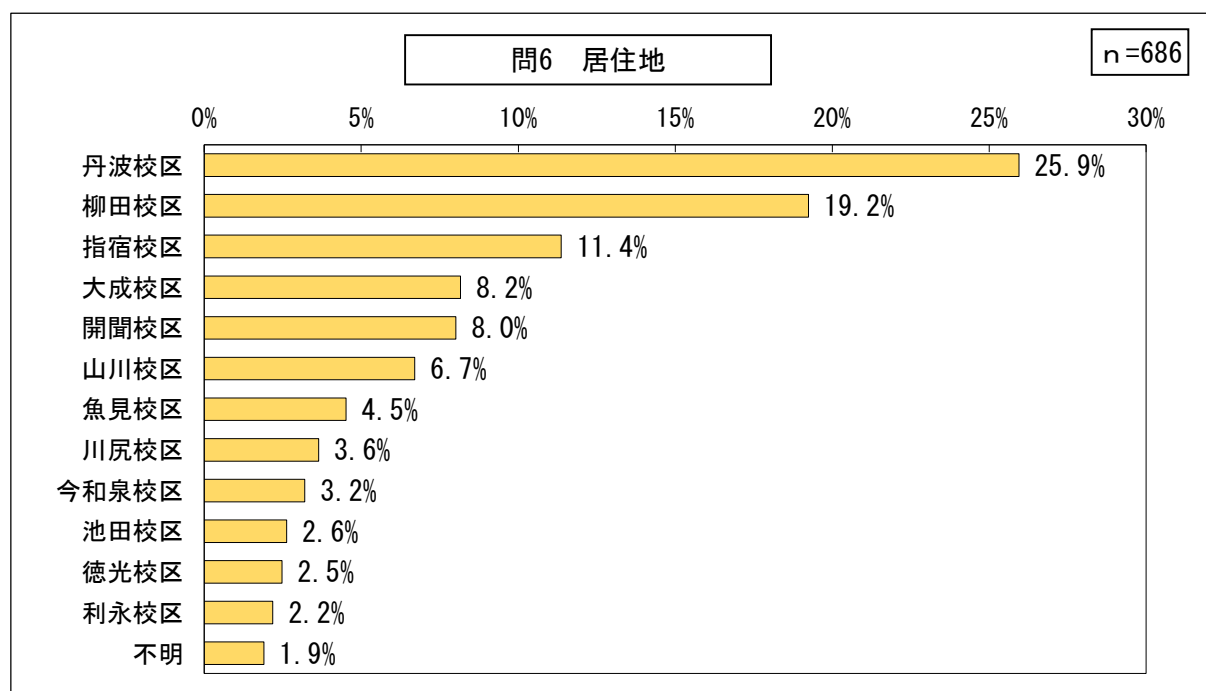
「二世代（親と子）」が52.8%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が28.7%、「単身（一人暮らし）」が12.2%、「その他」が3.2%、「三世代（親と子と孫）」が2.8%、「不明」が0.3%であった。



問6 あなたのお住まいの地域(地区)を教えてください。(カッコ内に地区名を記入)

【全体】

「丹波校区」が25.9%と最も多く、次いで「柳田校区」が19.2%、「指宿校区」が11.4%、「大成校区」が8.2%、「開聞校区」が8.0%であった。



2. 居住・防災

問7 お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。(番号1つに○)

【全体】

- ・「ずっと住み続けたい」が56.7%と最も多く、次いで「わからない」が25.5%、「別の場所へ住み替えたい」が11.8%であり、「住み替える予定がある」が5.7%、「不明」が0.3%であった。

⇒住み続けたいと考えている人が過半数を超えている

【校區別】

- ・すべての校区において、「ずっと住み続けたい」が最も多かった。

⇒住み続けたいと考えている人の割合は校区によって大きな差はない

- ・「川尻校区」では「別の場所へ住み替えたい」は28.0%であり、他の校区より高い割合であった。

⇒住み替えたいと考えている人の割合が他の校区に比べて多い

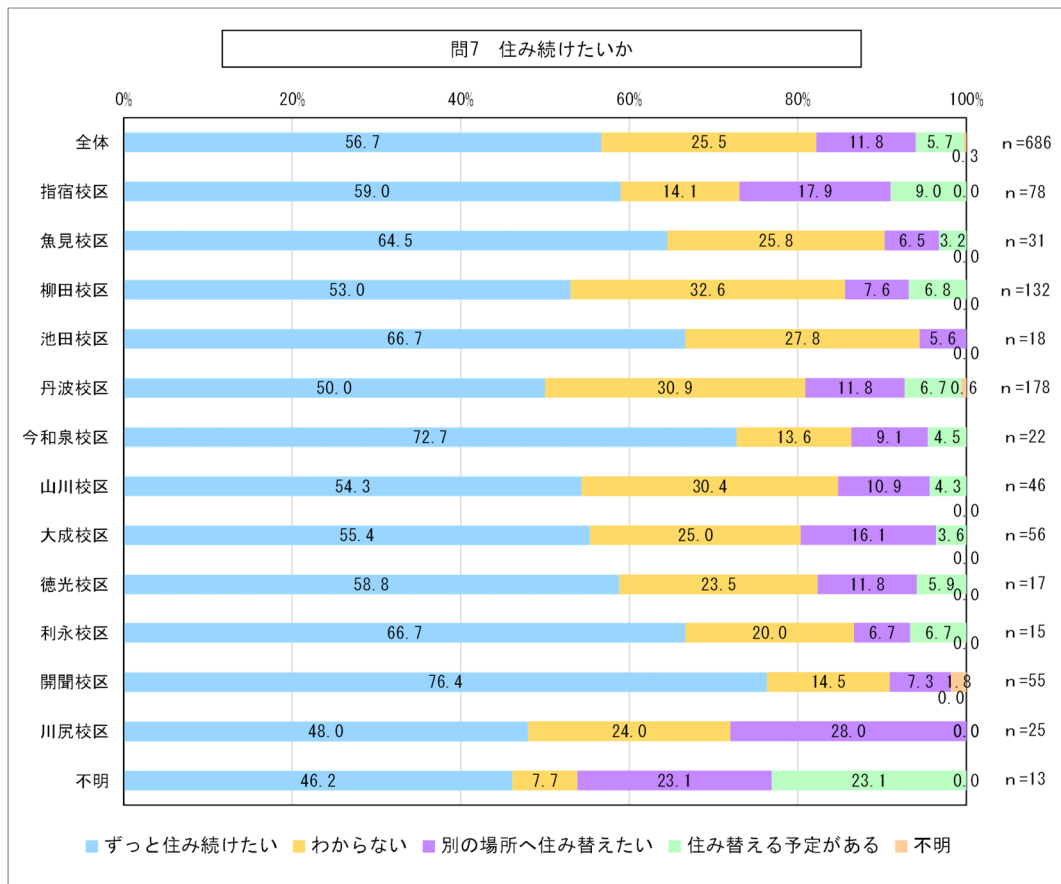
【年齢別】

- ・年代が上がるにつれて「ずっと住み続けたい」の割合が多かった。

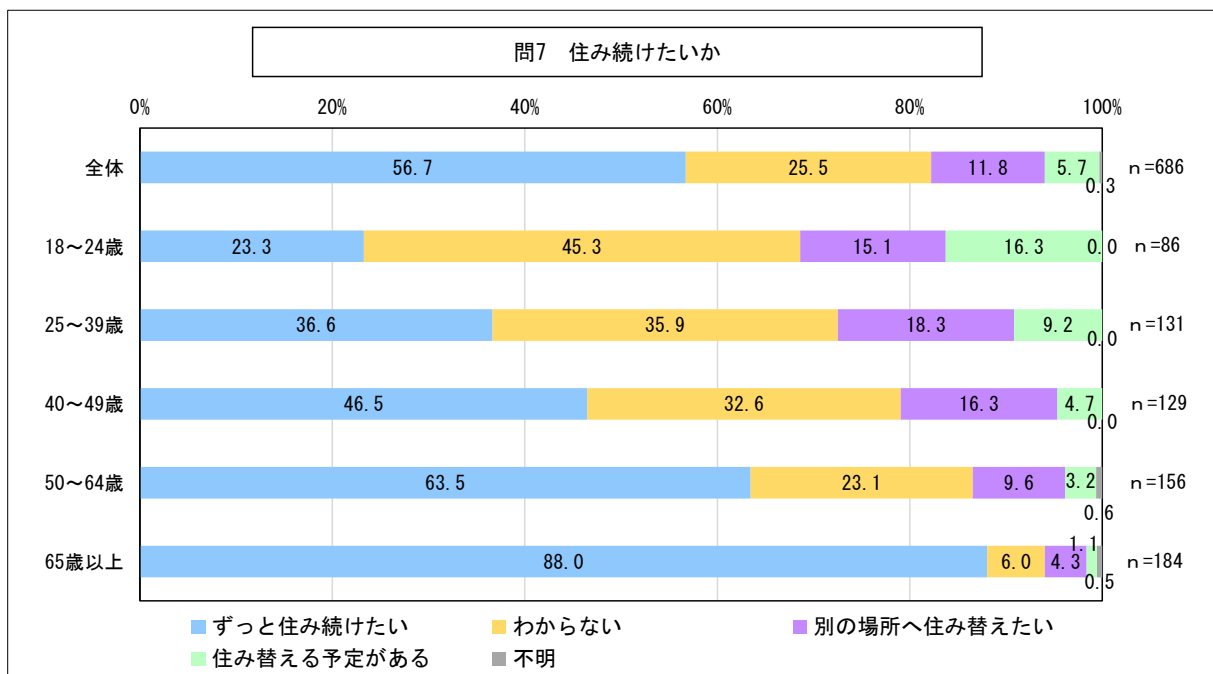
⇒上の年代では、住み続けたいと考えている人の割合が多い

- ・「18～24」歳では、他の年代に比べ「わからない」の割合が多かった。

⇒若い年代では、住み続けたいと考えている人の割合が少ない



【校区別】



【年齢別】

問8 問7で「1」と回答された方にお聞きします。お住まいの地域にずっと住み続けたい理由は何ですか。(番号3つまで○)

【全体】

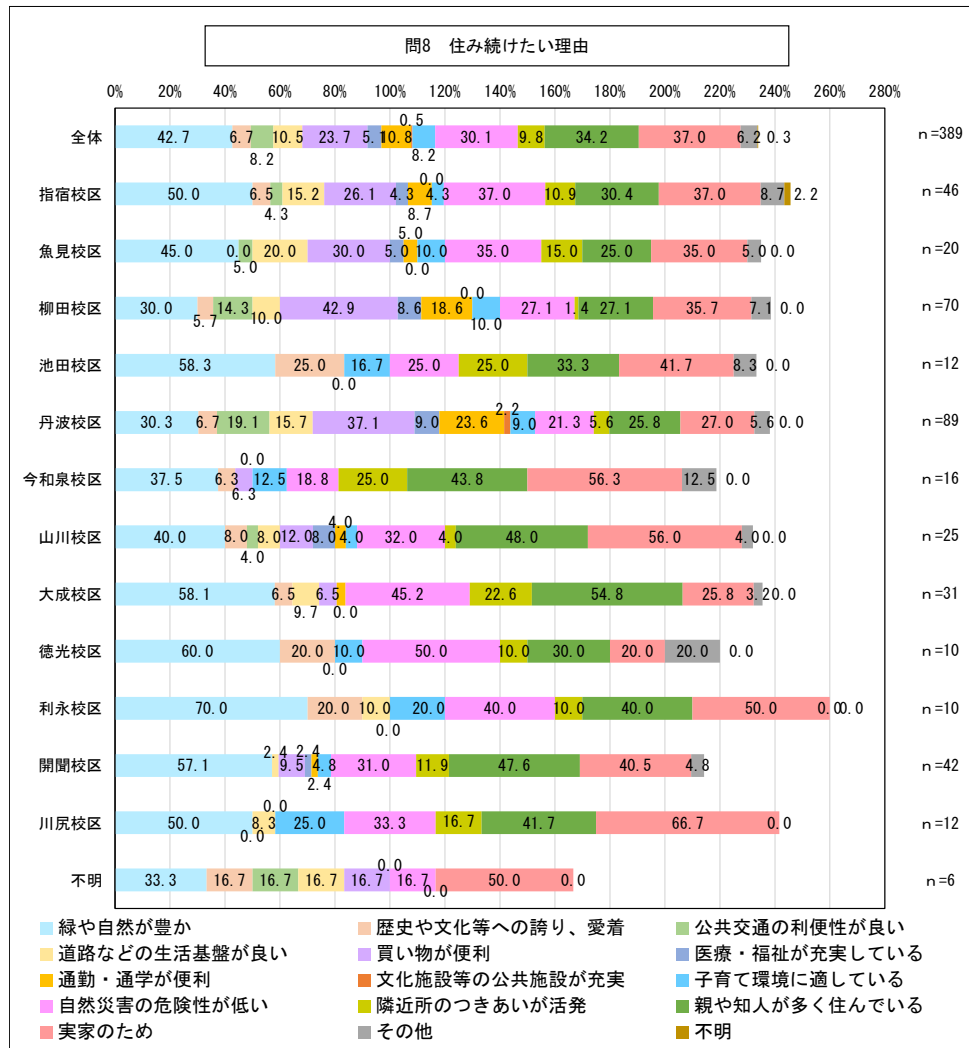
- ・「緑や自然が豊か」が42.7%と最も多く、次いで「実家のため」が37.0%、「親や知人が多く住んでいる」が34.2%、「自然災害の危険性が低い」が30.1%、「買い物が便利」が23.7%であった。
⇒実家暮らしで周りに親や知人が住んでおり、緑や自然が豊かな中でも自然災害の危険性が低いので安心して暮らすことができる

【校区別】

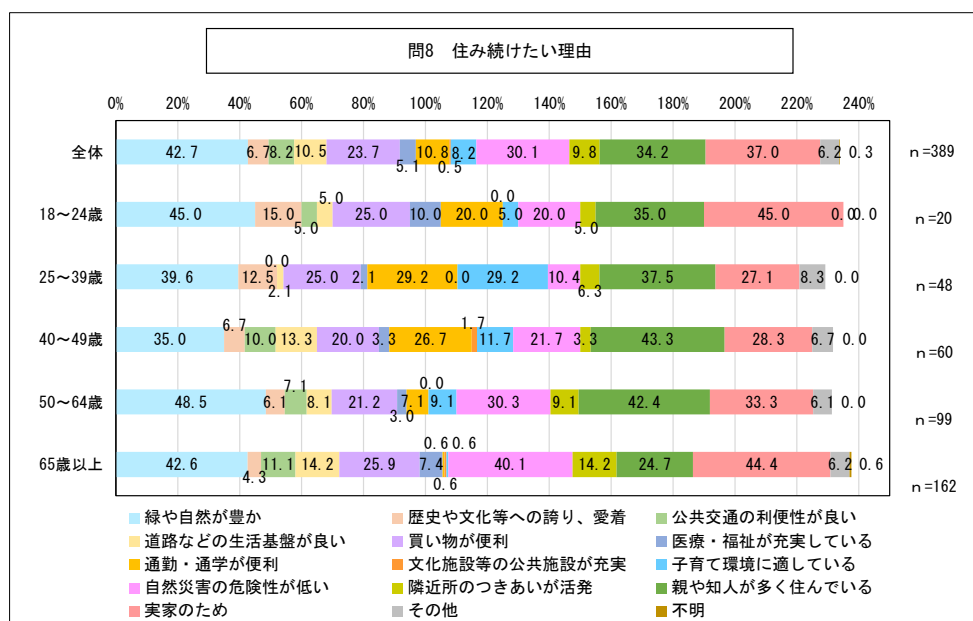
- ・「指宿校区」、「魚見校区」、「柳田校区」、「丹波校区」は、「買い物が便利」が全体よりも多いが、その他の校区では比較的低かった。
⇒校区によって買い物の利便性に大きく差がある
- ・「池田校区」、「今和泉校区」、「大成校区」は、「隣近所のつきあいが活発」が比較的多かった。
⇒隣近所の付き合いが活発である

【年齢別】

- ・「18～24歳」、「25～39歳」、「40～49歳」では、「通勤・通学が便利」が他の年代よりも多かった
⇒若い年代では、通勤・通学が便利だと感じている
- ・「25～39歳」は、「子育て環境に適している」が他の年代よりも多かった。
⇒子育て環境に適している
- ・「65歳以上」は、「自然災害の危険性が低い」が他の年代よりも多かった。
⇒自然災害の危険性が低い



【校区別】



【年齢別】

問9 問7で「3」もしくは「4」と回答された方にお聞きします。住み替えたい又は住み替える予定がある場所はどの辺りですか。

【全体】

- ・「県内」が33.3%と最も多く、次いで「市内」が28.3%であり、「県外」が20.0%、「不明」が18.3%であった。

⇒県内と市内を検討している人が過半数を占めている

【校区別】

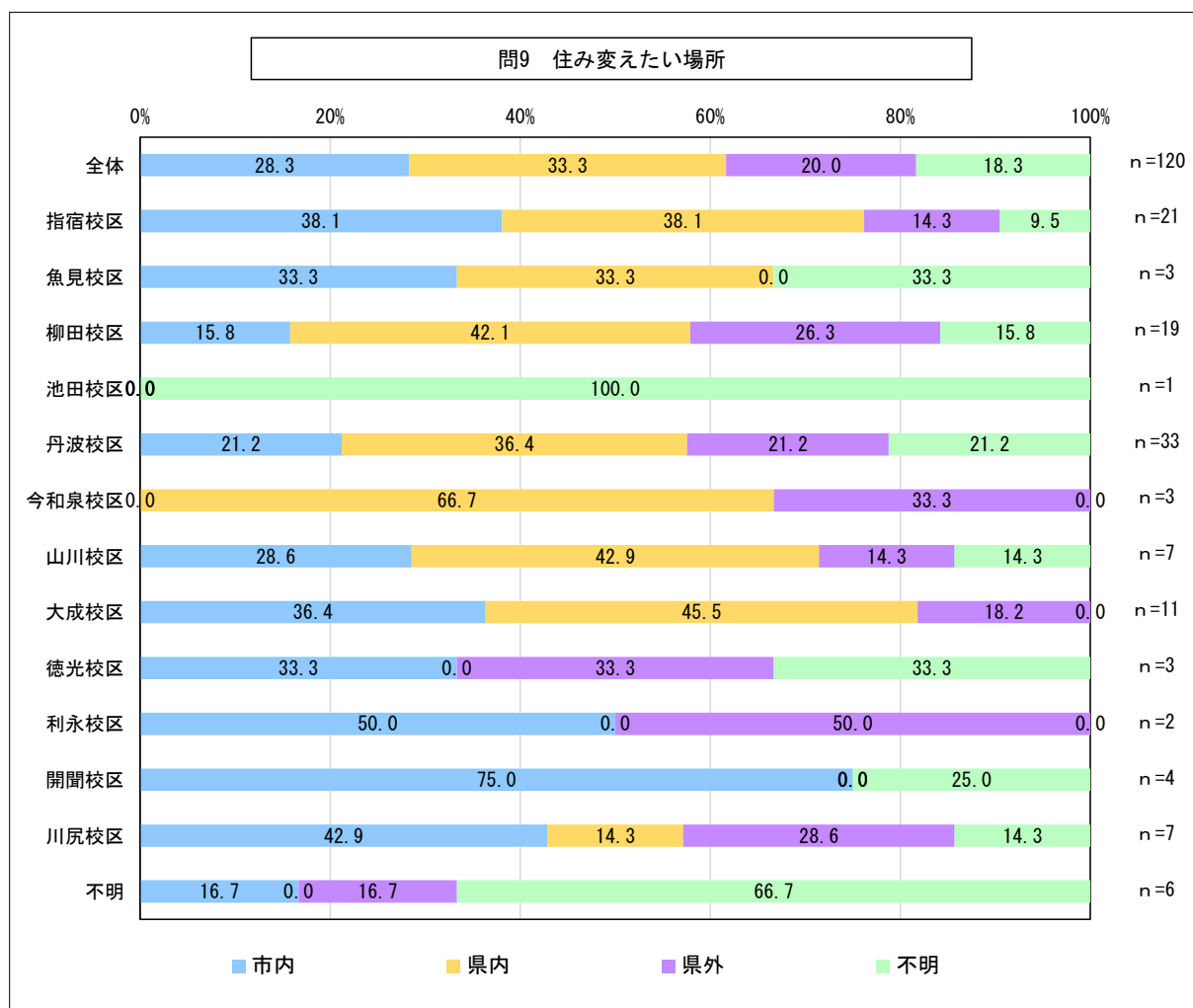
- ・「池田校区」「徳光校区」「利永校区」「開聞校区」では、「県内」が0.0%であった。

⇒県内への住み替えを検討していない校区もある

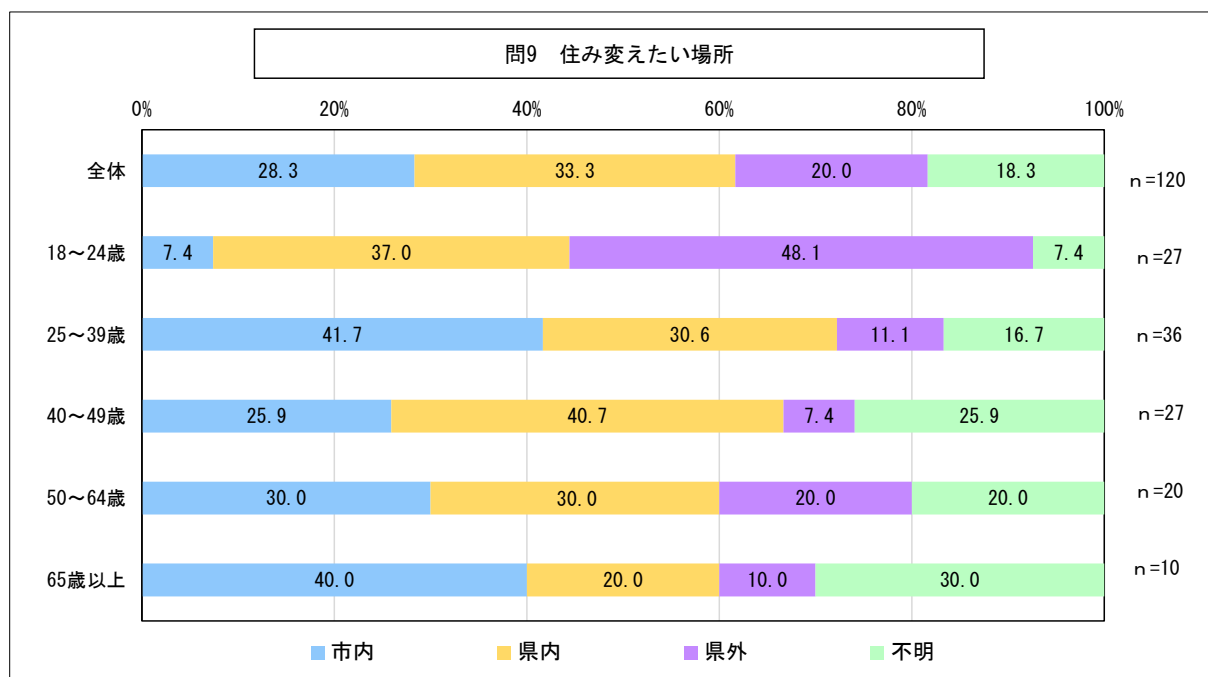
【年齢別】

- ・「18～24歳」では「県外」が48.1%と他の年代に比べても多く、「市内」の割合は非常に少なかった。

⇒県外への住み替えが最も多く、市内への住み替えは他の年代に比べても最も少ない



【校区別】



【年齢別】

問10 問7で「3」もしくは「4」と回答された方にお聞きします。住み替えたい又は住み替える予定がある理由は何ですか。（番号3つまで○）

【全体】

- ・「現在より買い物が便利」が 35.0%と最も多く、次いで「現在より公共交通の利便性が良い」が 33.3%、「現在より医療・福祉が充実している」が 23.3%、「その他」が 21.7%、「現在より通勤・通学が便利」が 17.5%であった。

⇒現在より買い物が便利で、公共交通の利便性がよく、医療・福祉が充実していることを重視している

【校区别】

- ・ほとんどの校区において、「現在より公共交通の利便性が良い」と「現在より買い物が便利」が多かった。

⇒現在より公共交通の利便性がよく、買い物が便利であることを重視している

- ・「山川校区」は、「現在より子育て環境に適している」が比較的多かった。

⇒現在より子育て環境に適していることを重視している

【年齢別】

- ・「18～24 歳」は、「現在より通勤・通学が便利」が他の年代と比較して多かった。

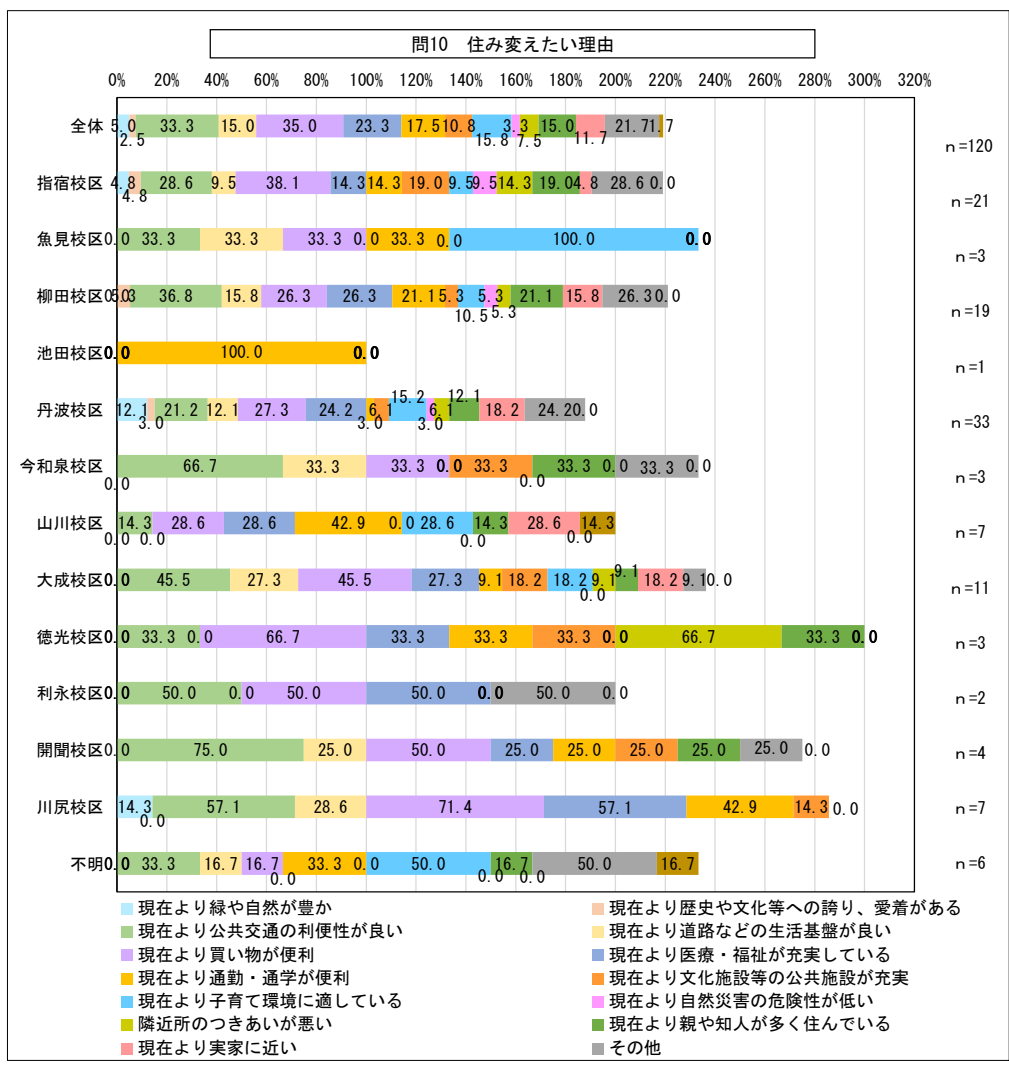
⇒現在より通勤・通学が便利であることを重視している

- ・「25～34 歳」は、「現在より子育て環境に適している」が他の年代と比較して多かった。

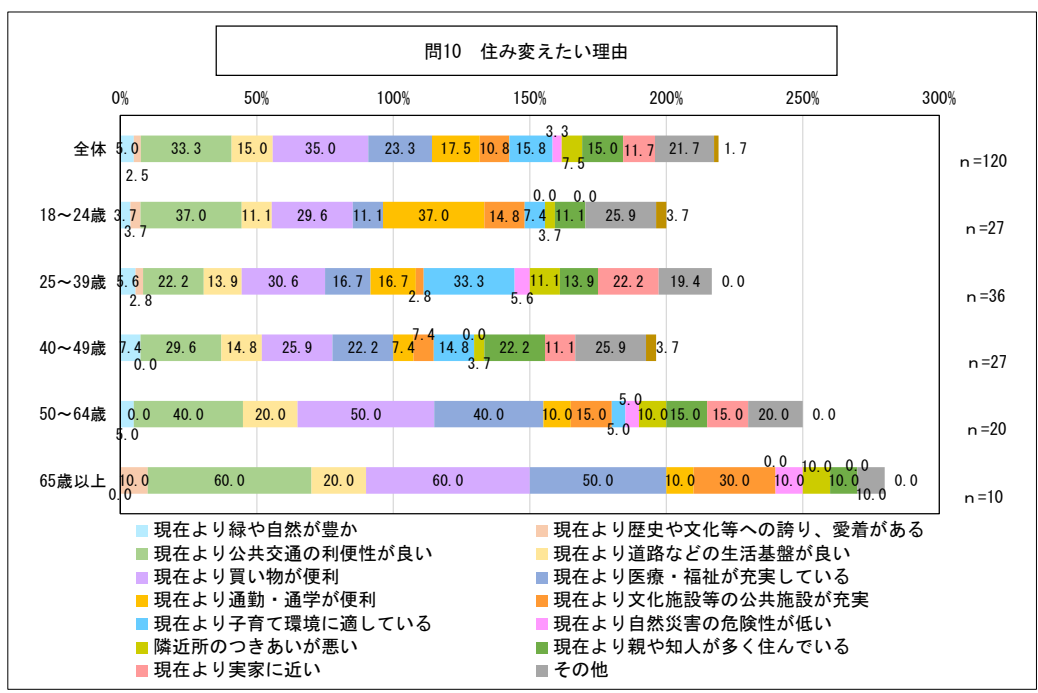
⇒現在より子育て環境に適していることを重視している

- ・「現在より医療・福祉が充実している」は、年代が上がるにつれて割合も増えた。

⇒上の年代では現在より医療・福祉が充実していることを重視している



【校区別】



【年齢別】

問 11 お住まいの地域における災害対策の必要性について教えてください。（それぞれ番号1つに○）

【全体】

- ・『10. 新たな避難所・避難ビルの新設』を除くすべての項目において「必要だと思う」、「どちらかと言えば必要だと思う」の合計が60%を超えている。
- ・『1. 地震対策』、『3. 台風・洪水対策』、『5. 道路・橋の整備』において、「必要だと思う」が50%を超えている。

⇒地震対策、台風・洪水対策、道路・橋の整備の必要性が高い

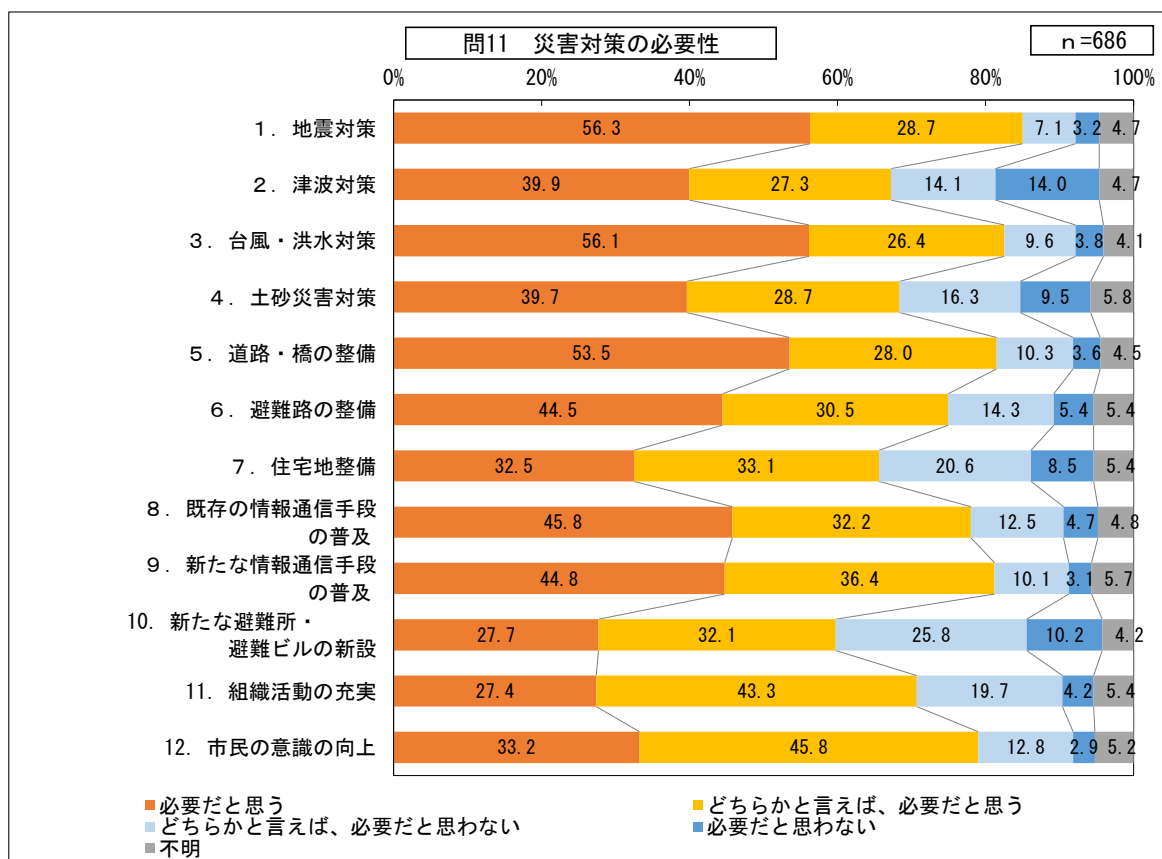
【全体・加重平均】

必要性の評価は、「必要だと思う」を4点、「どちらかと言えば、必要だと思う」を3点、「どちらかと言えば、必要だと思わない」を2点、「必要だと思わない」を1点とし、回答者数を母数として加重平均（※）で算出した。

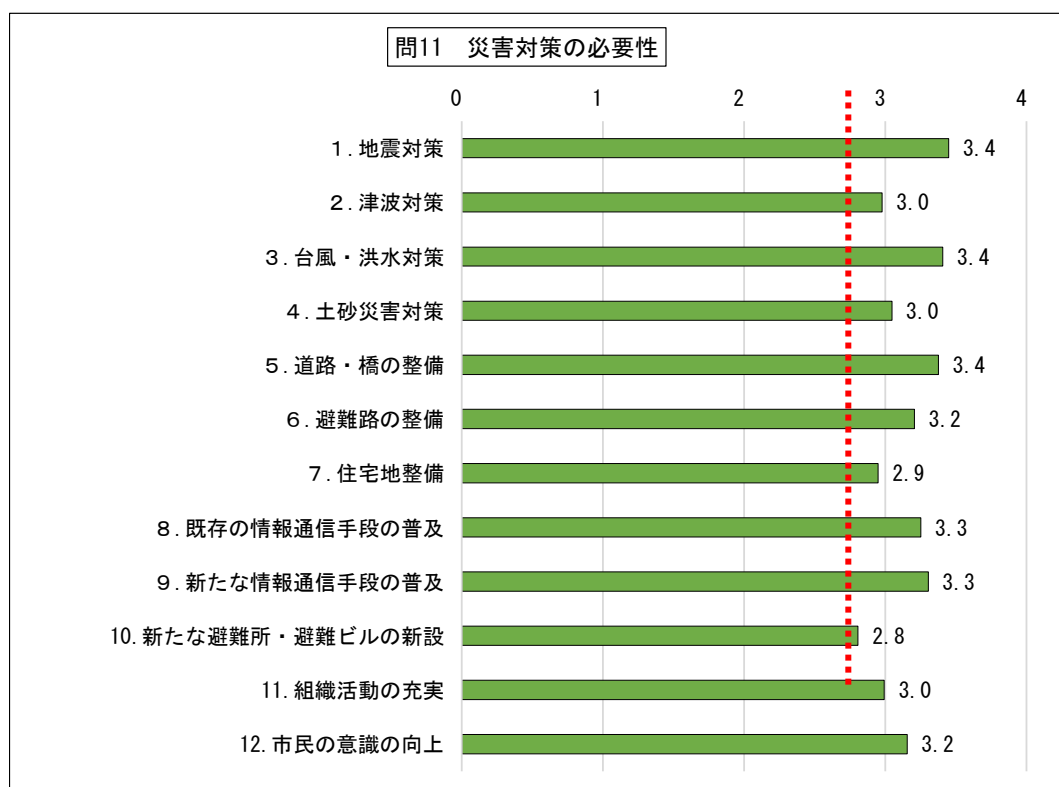
- ・全体的に大きく差はないが、『7. 住宅地整備』と『10. 新たな避難所・避難ビルの新設』は、3.0点未満であり、必要性は比較的低かった。

⇒住宅地整備と新たな避難所・避難ビルの新設の必要性は低い

※加重平均とは、数値の重みを考慮して平均値を算出すること



【全体】



【全体・加重平均】

必要性の評価は、「必要だと思う」を4点、「どちらかと言えば、必要だと思う」を3点、「どちらかと言えば、必要だと思わない」を2点、「必要だと思わない」を1点とし、回答者数を母数として加重平均（※）で算出した。

【校区別】

- ・得点の高い項目（平均が3.3点以上の項目）が最も多いのは「川尻校区」であった。
⇒川尻校区は必要性が高いと評価している項目が多い
- ・「1. 地震対策」と「5. 道路・橋の整備」において、3.3点以上の校区が多く優先度の評価が高かった。
⇒地震対策と道路・橋の整備の優先度高い
- ・「10. 新たな避難所・避難ビルの新設」においては、「利永地区」を除いた全ての校区で3.0点未満であり、特に「指宿校区」と「魚見校区」では2.41点であり、優先度の評価が低かった。
⇒新たな避難所・避難ビルの新設の優先度は低い

【年齢別】

- ・得点の高い項目（平均が3.3点以上の項目）が最も多いのは「40～49 歳」であった。
⇒40～49 歳は優先度が高いと評価している項目が多い
- ・「1. 地震対策」において、全ての年代で優先度の評価が高く3.3点以上となった。
⇒地震対策の優先度が高い
- ・「10. 新たな避難所・避難ビルの新設」においては、全ての年代で3.0点未満であり、特に「18～24 歳」と「25～39 歳」では2.7点未満で、優先度の評価は低かった。
⇒新たな避難所・避難ビルの新設の優先度は低い

	指宿市全体	指宿校区	魚見校区	柳田校区	池田校区	丹波校区	今和泉校区	山川校区	大成校区	徳光校区	利永校区	開聞校区	川尻校区
1. 地震対策	3.45	3.43	3.43	3.28	3.46	3.55	3.55	3.30	3.30	3.47	3.57	3.40	3.83
2. 津波対策	2.98	3.03	3.03	1.59	3.32	2.90	2.90	2.70	2.70	2.75	2.50	2.63	3.58
3. 台風・洪水対策	3.41	3.34	3.34	2.88	3.56	3.23	3.23	3.29	3.29	2.94	3.27	3.25	3.61
4. 土砂災害対策	3.05	2.96	2.96	3.18	3.01	3.23	3.23	3.43	3.43	2.67	3.29	3.04	2.96
5. 道路・橋の整備	3.38	3.38	3.38	3.35	3.44	3.55	3.55	3.28	3.28	2.94	3.29	3.22	3.48
6. 避難路の整備	3.20	3.00	3.00	3.33	3.27	3.43	3.43	3.08	3.08	2.94	2.93	3.10	3.32
7. 住宅地整備	2.95	2.90	2.90	3.12	3.09	3.10	3.10	2.84	2.84	2.50	2.53	2.75	3.30
8. 既存の情報通信手段の普及	3.25	3.07	3.07	3.18	3.25	3.45	3.45	3.04	3.04	3.06	3.33	3.30	3.50
9. 新たな情報通信手段の普及	3.30	3.17	3.17	3.12	3.33	3.27	3.27	3.04	3.04	3.31	3.20	3.25	3.59
10. 新たな避難所・避難ビルの新設	2.81	2.41	2.41	2.78	2.82	2.95	2.95	2.67	2.67	2.76	3.07	2.76	3.26
11. 組織活動の充実	2.99	2.79	2.79	2.78	2.99	3.50	3.50	2.90	2.90	2.75	3.36	3.10	3.30
12. 市民の意識の向上	3.15	2.90	2.90	3.29	3.17	3.45	3.45	3.04	3.04	2.75	3.50	3.15	3.57
すべての項目の平均点	3.16	3.03	3.03	2.99	3.23	3.30	3.30	3.05	3.05	2.90	3.15	3.08	3.44

【校区別】

	指宿市全体	18～24歳	25～39歳	40～49歳	50～64歳	65歳以上
1. 地震対策	3.45	3.34	3.34	3.48	3.49	3.36
2. 津波対策	2.98	3.10	3.10	2.98	2.93	2.78
3. 台風・洪水対策	3.41	3.48	3.48	3.45	3.38	3.20
4. 土砂災害対策	3.05	3.06	3.06	3.19	2.99	2.78
5. 道路・橋の整備	3.38	3.37	3.37	3.50	3.30	3.24
6. 避難路の整備	3.20	3.13	3.13	3.34	3.18	3.08
7. 住宅地整備	2.95	3.02	3.02	2.93	2.94	2.75
8. 既存の情報通信手段の普及	3.25	3.09	3.09	3.14	3.29	3.36
9. 新たな情報通信手段の普及	3.30	3.38	3.38	3.35	3.30	3.12
10. 新たな避難所・避難ビルの新設	2.81	2.67	2.67	2.81	2.80	2.88
11. 組織活動の充実	2.99	2.83	2.83	2.90	3.01	3.13
12. 市民の意識の向上	3.15	3.07	3.07	3.10	3.16	3.19
すべての項目の平均点	3.16	3.13	3.13	3.18	3.15	3.07

【年齢別】

※赤字：優先度の得点が3.3点以上の項目、青字：優先度の得点が2.7点未満の項目

3. 日常生活の施設

問 12 お住まいの地域の中心部（日常的に利用するスーパーや診療所等が集まっている場所）において、どのような施設が充実すれば良いと思いますか。充実することが望ましい施設を教えてください。（番号3つまで○）

【全体】

- ・「食料品・日用品店舗（スーパー等）」が55.1%と最も多く、次いで「総合病院」が46.1%、「大規模小売店舗（1,000㎡以上）」が24.8%、「銀行・郵便局等」が19.0%、「高齢者福祉施設」が17.3%であった。

⇒食料品・日用品店舗（スーパー等）、総合病院、大規模小売店舗、銀行・郵便局等、高齢者福祉施設の充実

【校区别】

- ・どの校区においても「総合病院」は多かったが、「池田校区」では他の校区と比較して少なかった。

⇒総合病院の需要は高い

- ・「池田地区」では、「小・中学校等の義務教育施設」や「高校、専門学校、大学等の教育機関」が他の校区より多かった。

⇒教育機関の需要が高い

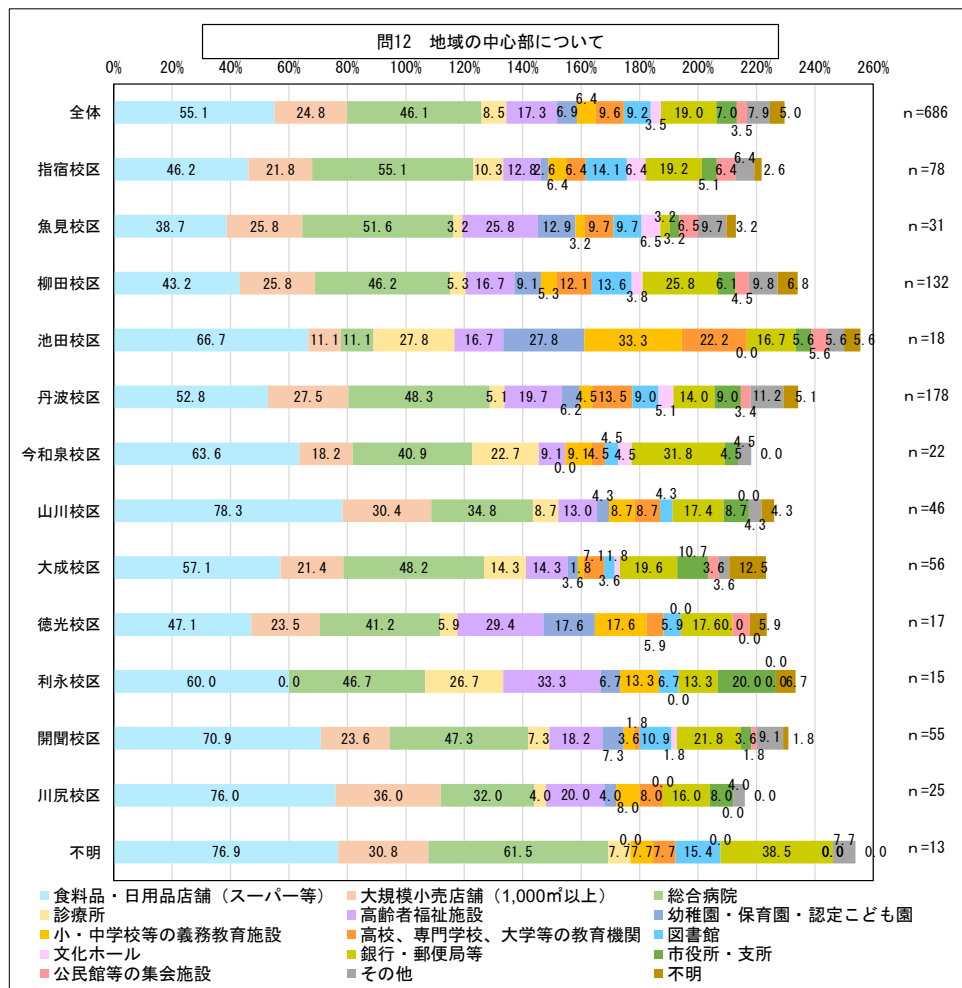
【年齢別】

- ・「18～24歳」と「25～39歳」は、「大規模小売店舗（1,000㎡以上）」が他の年代と比較して多かった。

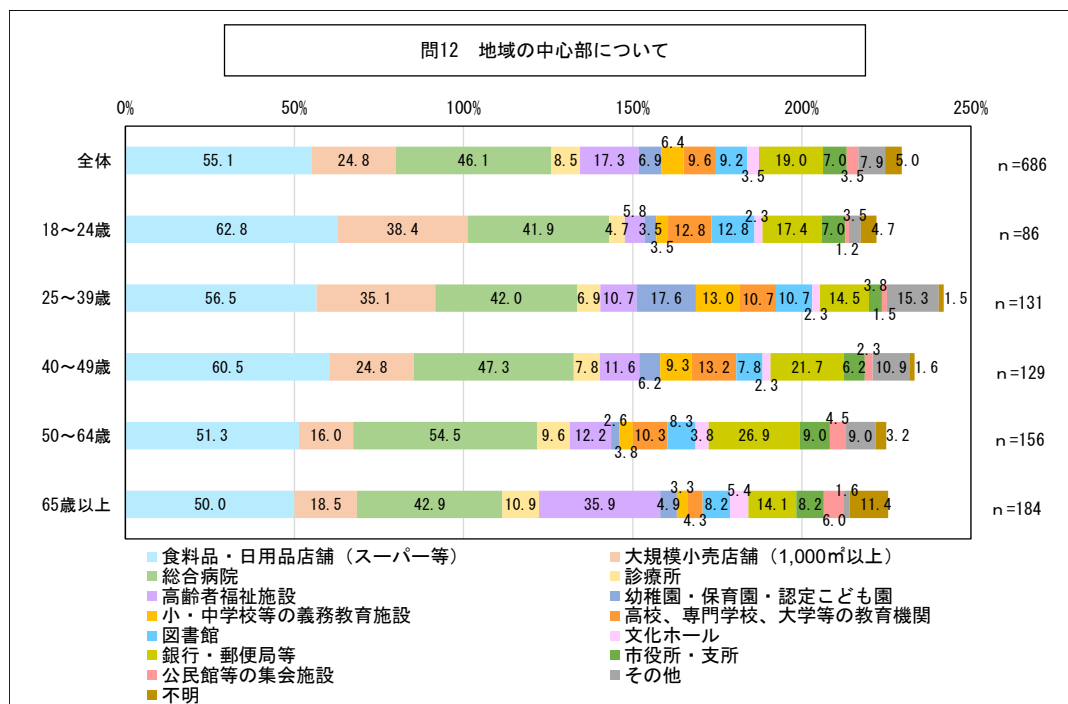
⇒規模小売店舗の需要が高い

- ・「65歳以上」は、「高齢者福祉施設」が他の年代と比較して多かった。

⇒高齢者福祉施設の需要が高い



【校区別】



【年齢別】

4. 公共交通

問 13 バスやＪＲなどの公共交通を利用する頻度はどのくらいですか。（番号１つに○）

【全体】

- ・「定期的には利用しない」が72.0%と最も多く、次いで「年数回」が18.5%、「月数回」が3.2%、「週5日以上」が2.6%、「週1～2日」が2.0%、「不明」が1.0%、「週3～4日」が0.6%であった。

⇒定期的に利用しない人の割合が多い

【校区別】

- ・「徳光校区」は、「週5日以上」が他の校区と比較して多かった。

⇒利用する頻度が他の校区より高い

- ・「利永校区」と「川尻校区」では、「年数回」と「定期的には利用しない」のみであった。

⇒ほとんど利用されていない校区もある

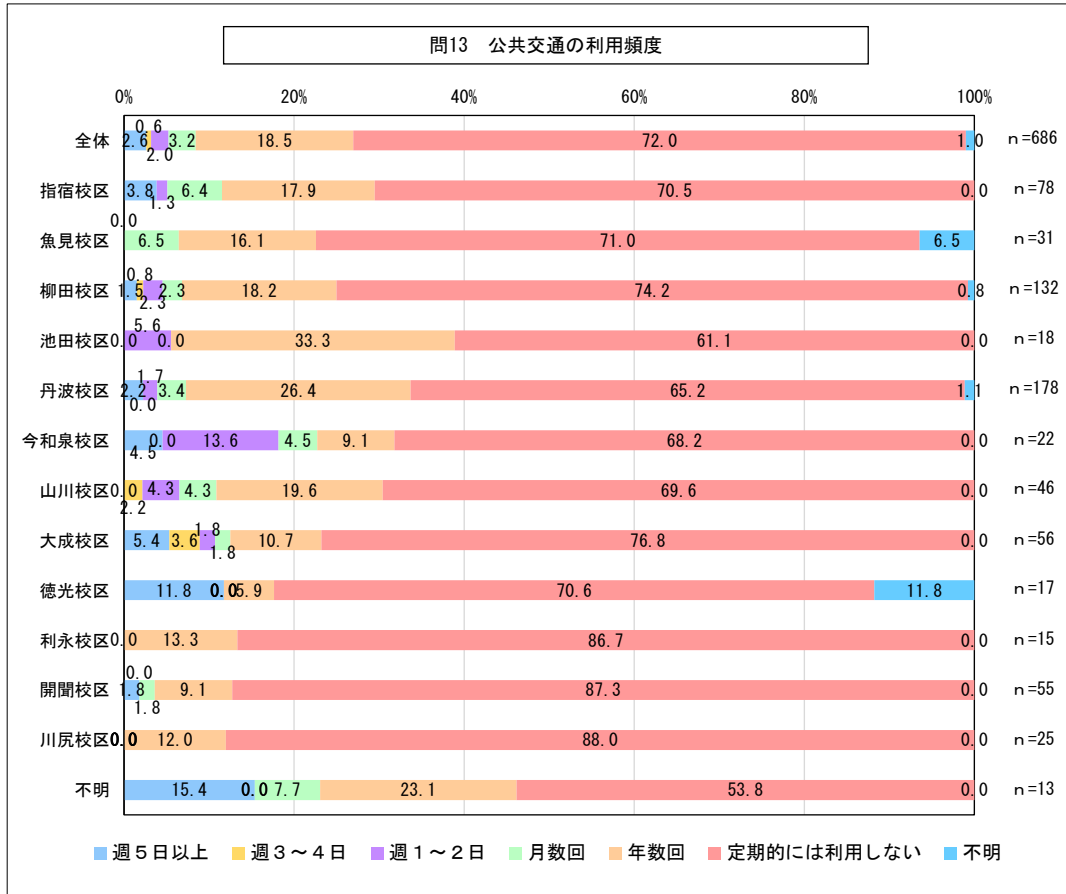
【年齢別】

- ・どの年代においても、「定期的には利用しない」が最も多く、「18～24歳」を除いて、すべての年代が70%を超えており、多い年代では80%を超えた。

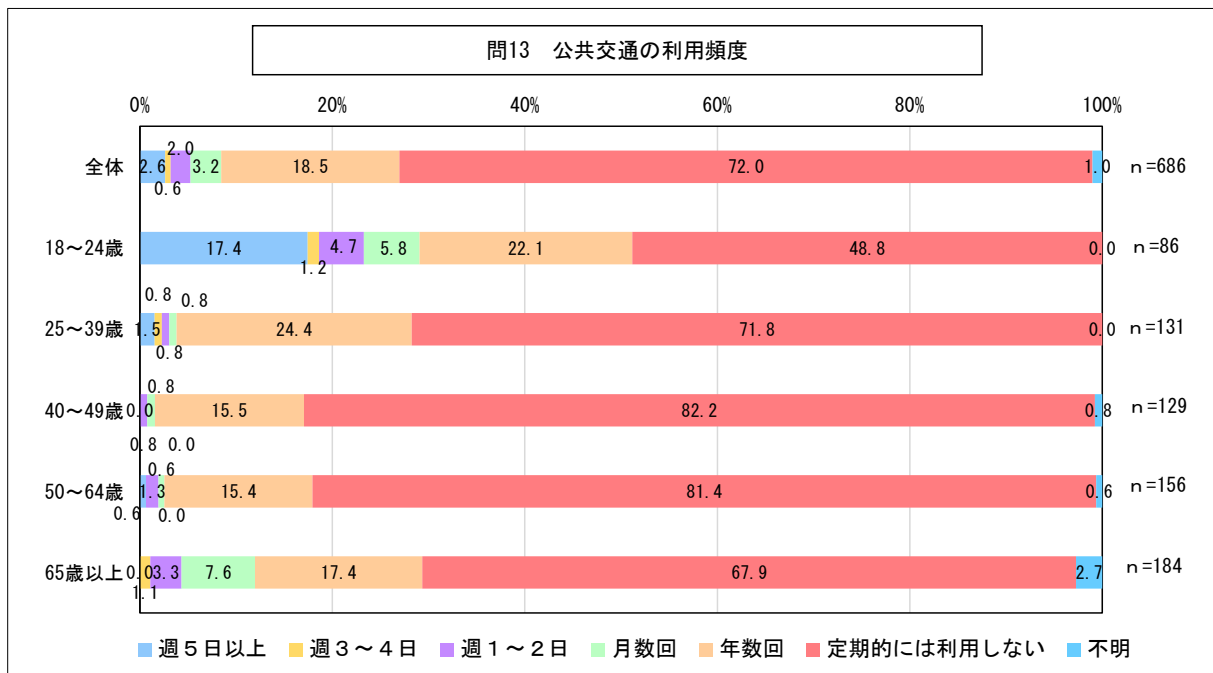
⇒定期的に利用しない割合が多い

- ・「18～24歳」は、「週5日以上」が他の年代と比較して多かった。

⇒利用する頻度が他の年代よりも高い



【校区別】



【年齢別】

問 14 あなたの公共交通に対する満足度を教えてください。(番号1つに○)

【全体】

- ・「どちらかと言えば、満足している」が31.9%と最も多く、次いで「どちらかと言えば、満足していない」が31.8%、「満足していない」が24.1%、「満足している」が7.4%、「不明」が4.8%であった。「満足していない」、「どちらかと言えば、満足していない」と回答した合計は50%を超えている。

⇒満足していない（「満足していない」及び「どちらかと言えば、満足していない」）が50%を超えている

【校區別】

- ・「利永校区」と「川尻校区」では、「満足している」と「どちらかと言えば、満足している」の割合が20%であり、他の校区と比較して少なかった。

⇒満足していない（「満足していない」及び「どちらかと言えば、満足していない」）が他の校区より多い

【年齢別】

- ・「18～24 歳」では「どちらかと言えば、満足している」が他の年代より多かった。

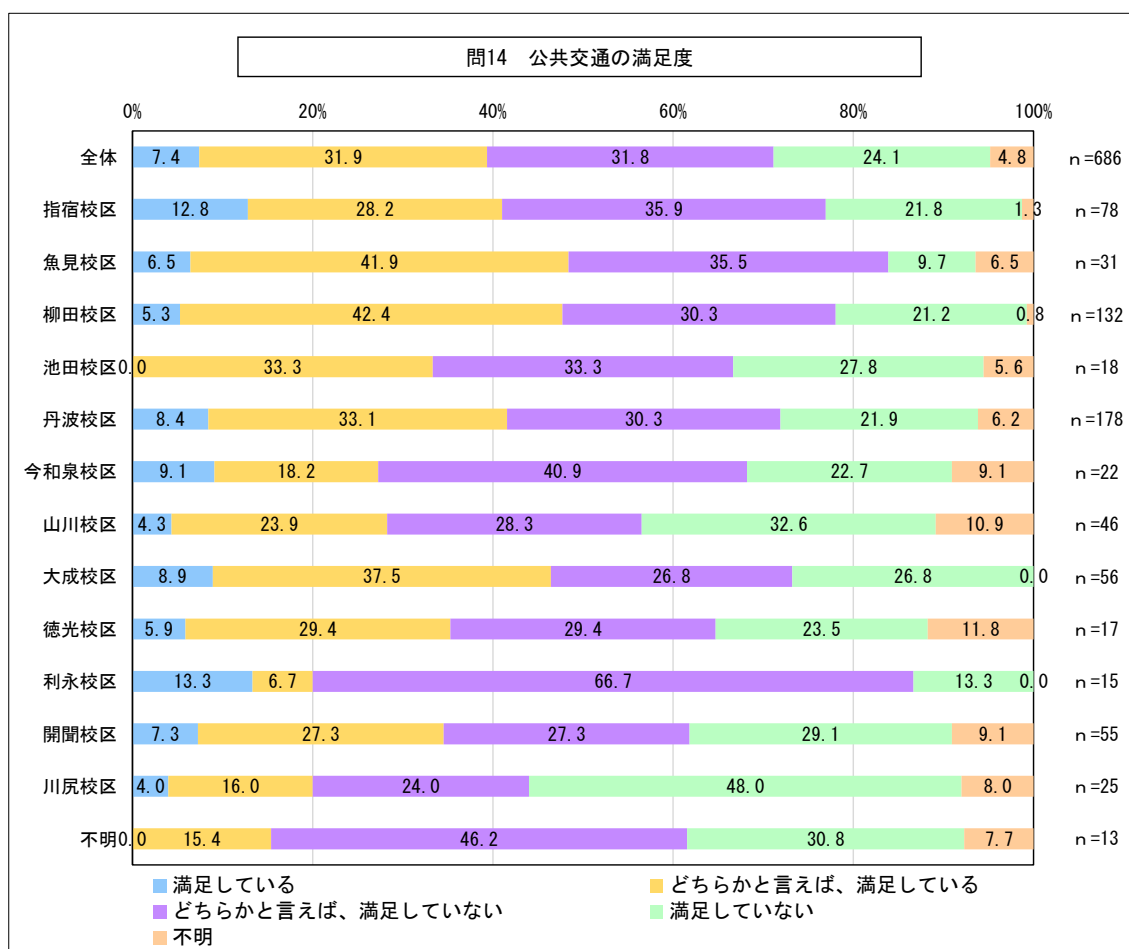
⇒満足している割合が他の年代より多い

- ・「40～49 歳」では「満足していない」が34.9%と最も多かった。

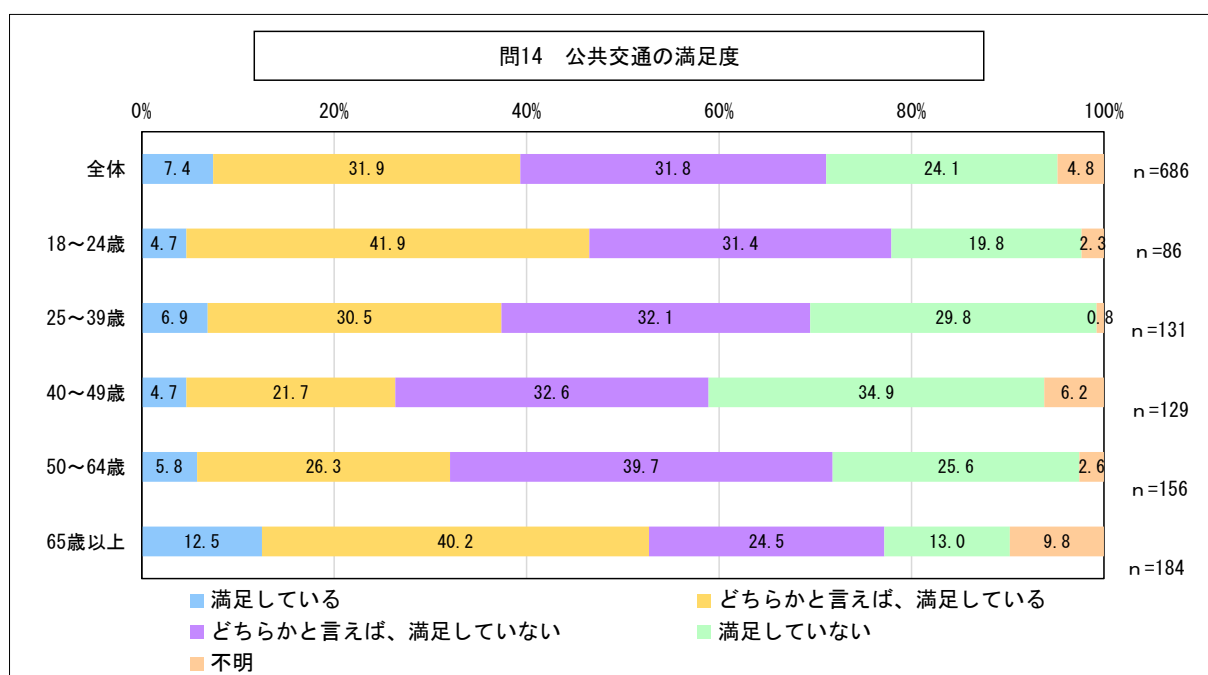
⇒満足していない割合が最も多い

- ・「65 歳以上」以外の年代では、「どちらかと言えば、満足していない」と「満足していない」の割合が50%以上である。

⇒満足している人が多い



【校区別】



【年齢別】

問 15 概ね 20 年後を見据え、市民の移動手段の確保に向けて、指宿市全域で必要と思う公共交通（JR・バス等）の取組について教えてください。（それぞれ番号 1 つに○）

【全体】

- ・すべての項目において、「必要だと思う」「どちらかと言えば、必要だと思う」が 50%を超えている。中でも、『9. 駅・バス停や車両のバリアフリー化』は、80%を超えている。

⇒すべての項目において必要性が高く、中でも駅・バス停や車両のバリアフリー化は特に必要性が高い

【全体・加重平均】

必要性の評価は、「必要だと思う」を 4 点、「どちらかと言えば、必要だと思う」を 3 点、「どちらかと言えば、必要だと思わない」を 2 点、「必要だと思わない」を 1 点とし、回答者数を母数として加重平均（※）で算出した。

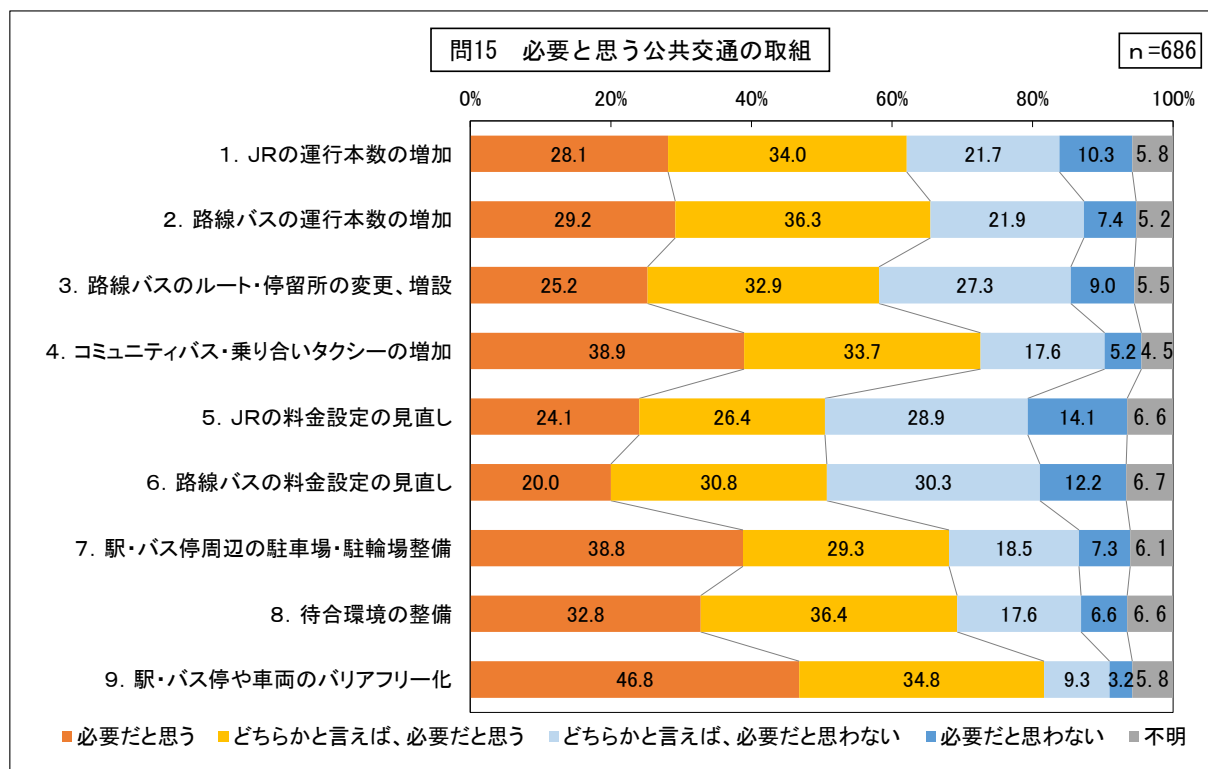
- ・『5. JR の料金設定の見直し』と『6. 路線バスの料金設定の見直し』は、2.6 点と他と比較して必要性が低かった。

⇒JR の料金設定の見直しと路線バスの料金設定の見直しの必要性は低い

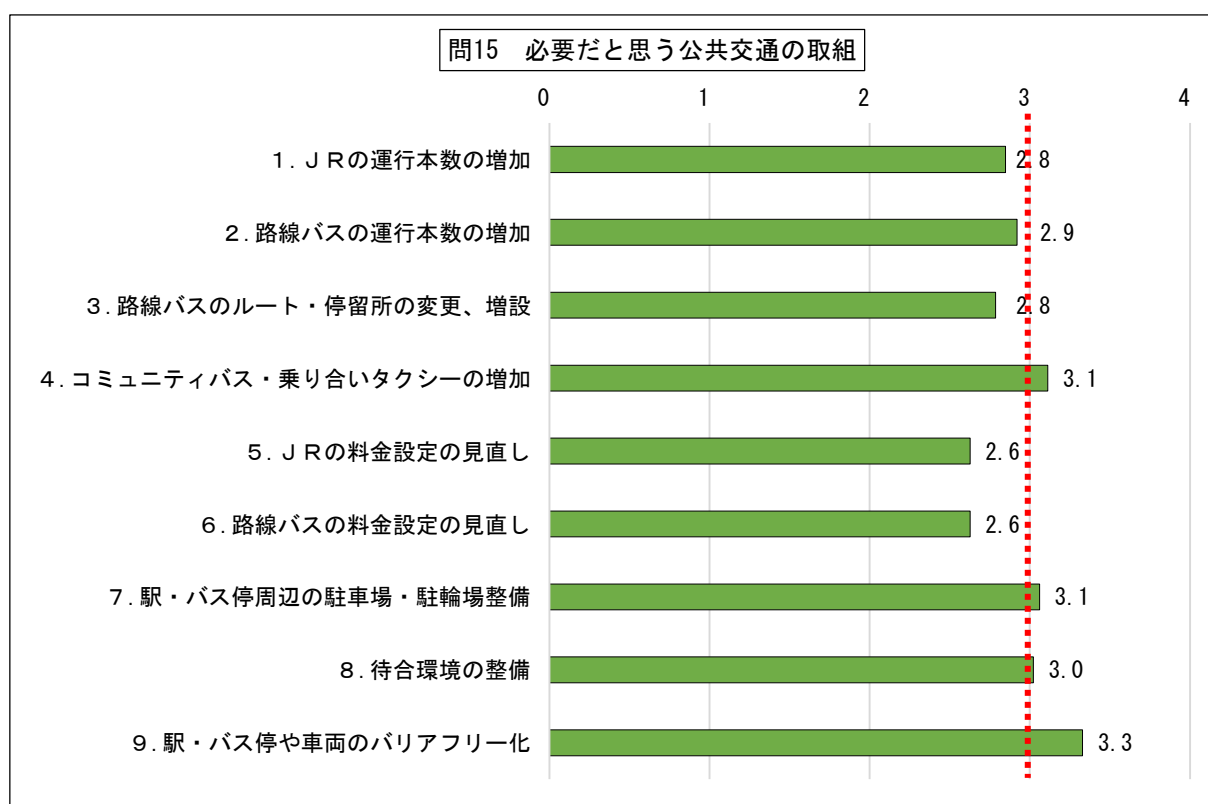
- ・『9. 駅・バス停や車両のバリアフリー化』は 3.3 点と他と比較して必要性が高かった。

⇒駅・バス停や車両のバリアフリー化の必要性は高い

※加重平均とは、数値の重みを考慮して平均値を算出すること



【全体】



【全体・加重平均】

必要性の評価は、「必要だと思う」を4点、「どちらかと言えば、必要だと思う」を3点、「どちらかと言えば、必要だと思わない」を2点、「必要だと思わない」を1点とし、回答者数を母数として加重平均（※）で算出した。

【校区別】

- ・得点の低い項目（平均が2.7点以下の項目）が最も多いのは「魚見校区」と「大成校区」であった。

⇒全体的に必要性の評価が低い校区もある

- ・「9. 駅・バス停や車両のバリアフリー化」において、全ての校区で必要性の評価が高く3.0点以上であり、中でも「利永校区」で特に必要性の評価が高かった。

⇒駅・バス停や車両のバリアフリー化の必要性が高く、利永校区で最も高い

- ・「5. JRの料金設定の見直し」と「6. 路線バスの料金設定の見直し」は、2.5点未満の校区も多く、必要性の評価は低かった。

⇒JRの料金設定の見直しと路線バスの料金設定の見直しの必要性は低い

【年齢別】

- ・得点の低い項目（平均が2.7点以下の項目）が最も多いのは「25～39歳」であった。

⇒どの項目も必要性の評価が低い

- ・「9. 駅・バス停や車両のバリアフリー化」において、全ての年代で優先度の評価が高く3.0点以上であり、中でも「40～49歳」で特に必要性の評価が高かった。

⇒駅・バス停や車両のバリアフリー化の必要性が高く、40～49歳で最も高い

- ・「5. JRの料金設定の見直し」と「6. 路線バスの料金設定の見直し」は、全ての年代において3.0点未満であり、必要性は低かった。

⇒JRの料金設定の見直しと路線バスの料金設定の見直しの必要性は低い

	指宿市全体	指宿校区	魚見校区	柳田校区	池田校区	丹波校区	今和泉校区	山川校区	大成校区	徳光校区	利永校区	開聞校区	川尻校区
1. J Rの運行本数の増加	2.85	2.83	2.63	2.88	2.92	2.64	2.64	2.98	2.63	2.93	2.79	2.88	2.95
2. 路線バスの運行本数の増加	2.92	3.07	2.67	2.63	2.92	2.62	2.62	3.21	2.67	2.86	3.14	2.96	3.41
3. 路線バスのルート	2.79	2.85	2.70	2.94	2.86	2.71	2.71	2.85	2.70	2.67	3.23	2.52	2.91
4. コミュニティバス・乗り合いタクシーの増加	3.11	3.05	2.67	3.06	3.19	3.29	3.29	3.02	2.67	2.79	3.29	3.00	3.17
5. J Rの料金設定の見直し	2.63	2.80	2.47	2.80	2.76	2.38	2.38	2.53	2.47	2.50	2.29	2.69	2.62
6. 路線バスの料金設定の見直し	2.63	2.80	2.47	2.80	2.76	2.38	2.38	2.53	2.47	2.50	2.29	2.69	2.62
7. 駅・バス停周辺の駐車場・駐輪場整備	3.06	3.11	3.07	3.31	3.09	2.90	2.90	2.95	3.07	3.21	2.87	2.94	3.05
8. 待合環境の整備	3.02	3.08	2.83	3.20	3.06	3.05	3.05	2.88	2.83	3.14	2.71	2.90	3.27
9. 駅・バス停や車両のバリアフリー化	3.33	3.30	3.20	3.33	3.41	3.48	3.48	3.29	3.20	3.21	3.50	3.14	3.18
すべての項目の平均点	2.93	2.99	2.74	2.99	2.99	2.83	2.83	2.92	2.74	2.87	2.90	2.86	3.02

【校区別】

	指宿市全体	18歳 以下	25歳 以下	40歳 以下	50歳 以下	65歳 以上
1. J Rの運行本数の増加	2.85	3.27	2.67	2.88	2.80	2.78
2. 路線バスの運行本数の増加	2.92	3.00	2.71	2.96	2.98	2.96
3. 路線バスのルート	2.79	2.89	2.65	2.80	2.89	2.73
4. コミュニティバス・乗り合いタクシーの増加	3.11	2.91	2.94	3.26	3.31	3.06
5. J Rの料金設定の見直し	2.65	2.82	2.39	2.68	2.71	2.67
6. 路線バスの料金設定の見直し	2.63	2.62	2.35	2.68	2.75	2.70
7. 駅・バス停周辺の駐車場・駐輪場整備	3.06	3.18	3.04	3.10	3.05	2.99
8. 待合環境の整備	3.02	3.12	2.89	3.19	3.03	2.93
9. 駅・バス停や車両のバリアフリー化	3.33	3.47	3.26	3.54	3.30	3.17
すべての項目の平均点	2.93	3.03	2.77	3.01	2.98	2.89

【年齢別】

※赤字：優先度の得点が3.3点以上の項目、青字：優先度の得点が2.7点未満の項目

5. 今後のまちづくり

問 16 依頼文のおもて面をご確認いただいた上で、コンパクトシティ・プラス・ネットワークによるまちづくりの必要性についてどのように思いますか。(番号1つに○)

【全体】

- ・「どちらかと言えば、必要であると思う」が 45.6%と最も多く、次いで「必要であると思う」が 42.3%、「必要でない」が 6.6%、「不明」が 5.5%であった。

⇒必要である（「必要であると思う」及び「どちらかと言えば、必要であると思う」）が約9割を占めている

【校区別】

- ・「魚見校区」と「徳光校区」は、「必要であると思う」が他の校区と比較して少なかった。

⇒他の校区より比較的必要性が低いと評価されている

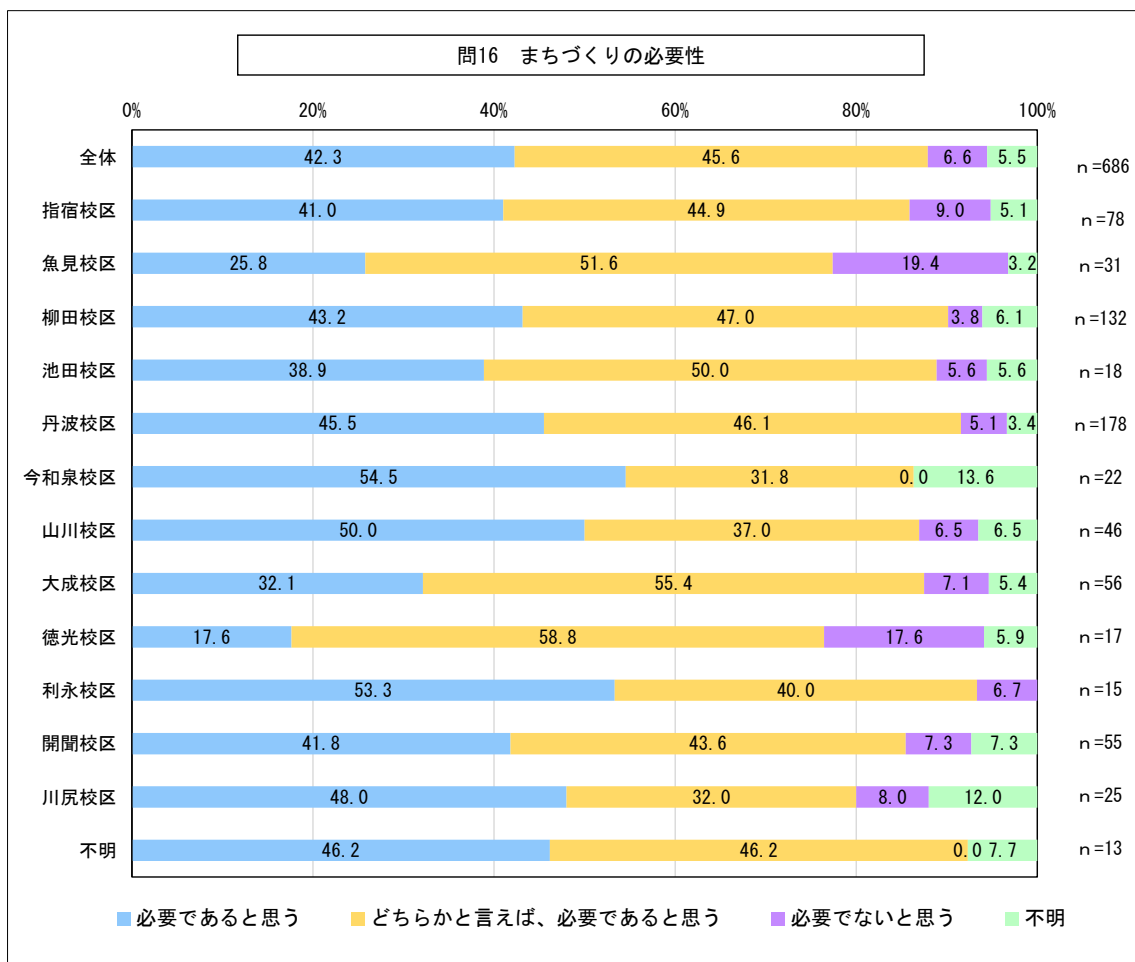
【年齢別】

- ・どの年代においても「必要であると思う」と「どちらかと言えば、必要であると思う」の合計の割合が 80%を超えた。

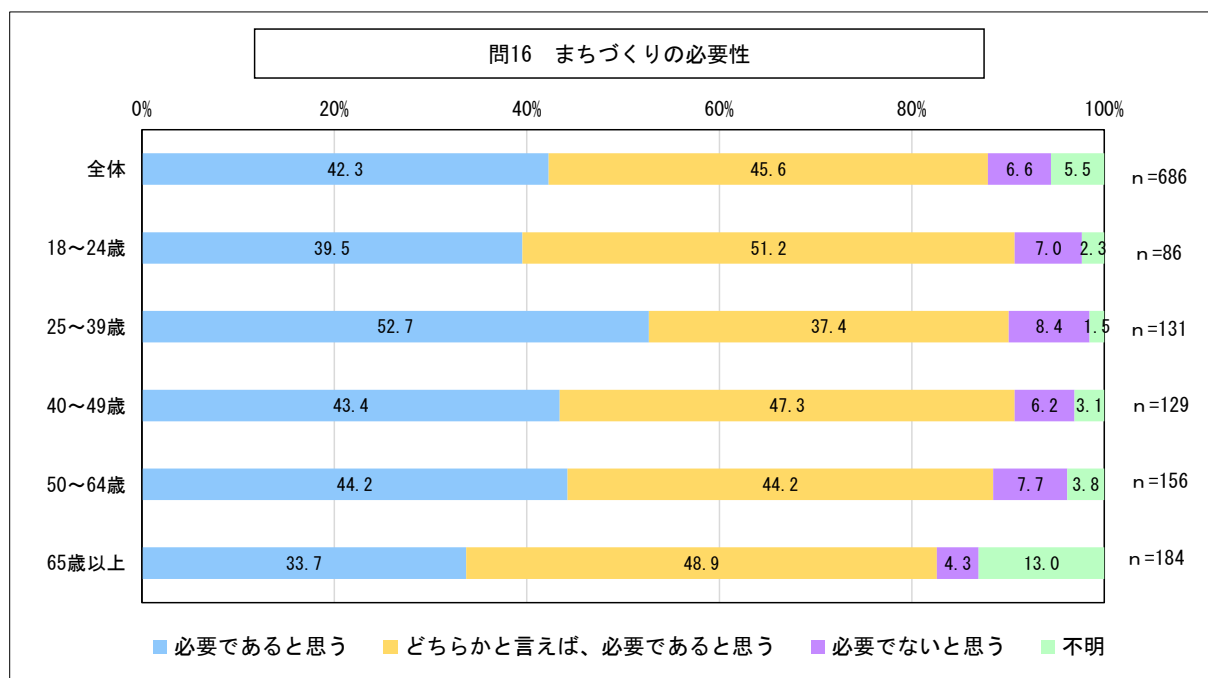
⇒必要性は高く評価されている

- ・「18～24 歳」では「どちらかと言えば、必要であると思う」が最も多く他の年齢よりも多い。

⇒必要性は高く評価されている



【校区別】



【年齢別】

問 17 近年、全国的に人口減少・少子高齢化が進行しており、指宿市においても同様な傾向となっています。これらは、生活関連サービス（飲食店やスーパー等）の縮小や税収減による行政サービス水準の低下、地域公共交通の撤退・縮小等、様々な分野に影響する可能性があります。

上記のような状況を踏まえ、あなたは指宿市の今後のまちづくりについて、重視すべきことはなんでしょうか。（番号3つまで○）

【全体】

- ・「日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保」が 52.2%と最も多く、次いで「空き家や空き地の有効活用によるまちなか居住の推進」が 41.3%、「駅や市街地中心部への移動に便利な市内公共交通網の充実」が 34.7%、「利用しやすい道路交通ネットワークの整備」と「公園の遊具の整備等、子育て環境の整備」が 23.9%であった。

⇒日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保、空き家や空き地の有効活用によるまちなか居住の推進、駅や市街地中心部への移動に便利な市内公共交通網の充実、利用しやすい道路交通ネットワークの整備、公園の遊具の整備等、子育て環境の整備を重視すべきである

【校区別】

- ・「指宿校区」を除いた全ての校区で、「日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保」が最も多かった。

⇒日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保を重視すべきである

- ・「池田校区」は、「観光交流拠点の整備による稼げる地域づくりの推進」が他の校区と比較して多かった。

⇒交流拠点の整備による稼げる地域づくりの推進を重視すべきである

【年齢別】

- ・どの年代においても、「日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保」が最も多かった。

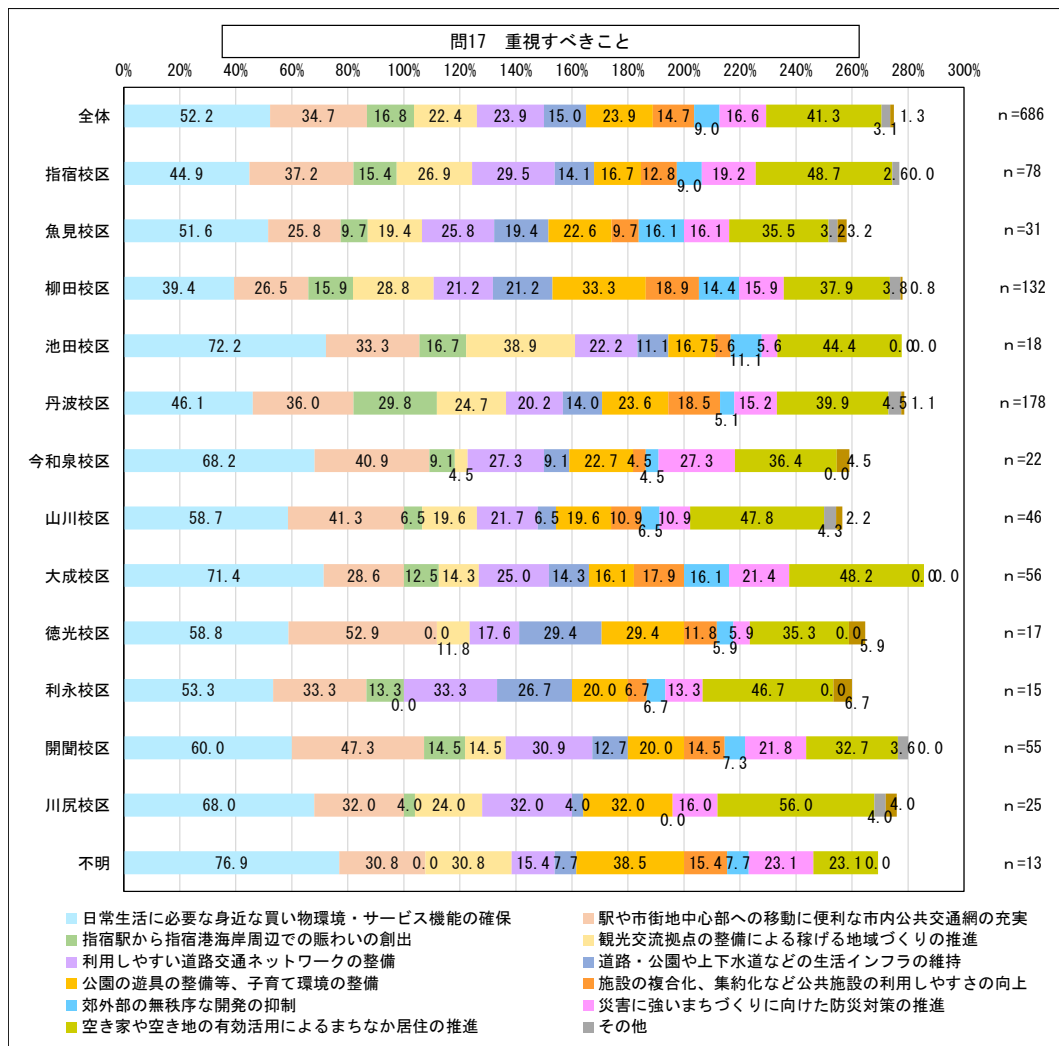
⇒日常生活に必要な身近な買い物環境・サービス機能の確保を重視すべきである

- ・「25～39 歳」では「公園の遊具の整備等、子育て環境の整備」が最も多く、他の年代では「空き家や空き地の有効活用によるまちなか居住の推進」が多かった。

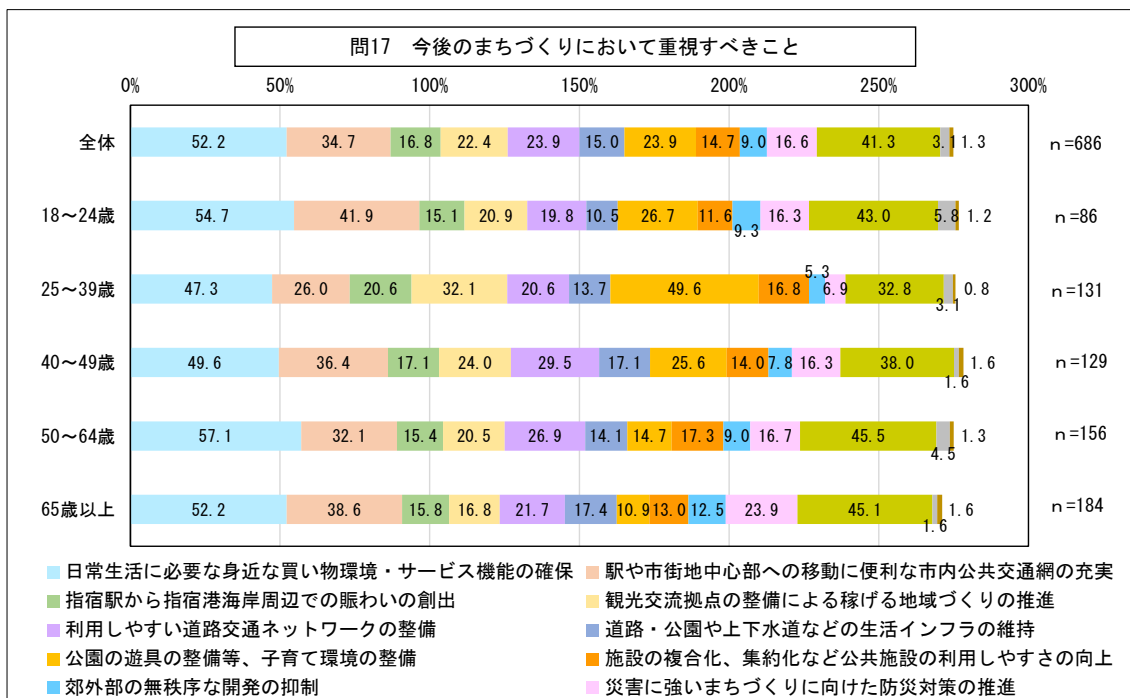
⇒公園の遊具の整備等、子育て環境の整備を重視すべきである

- ・他の年代では「空き家や空き地の有効活用によるまちなか居住の推進」が多かった。

⇒空き家や空き地の有効活用によるまちなかの居住の推進を重視すべき



【校区別】



【年齢別】

6. 自由意見

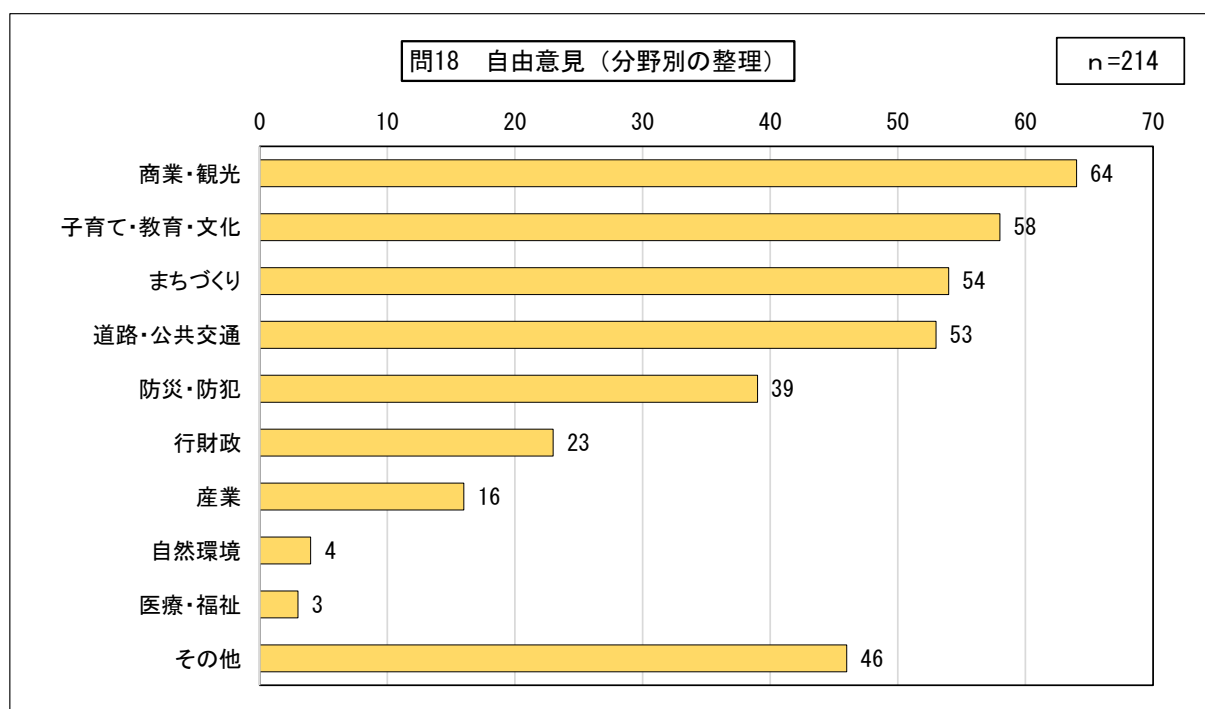
問18 まちづくりに関するご意見があればお聞かせください。

指宿市のまちづくりに関して、自由意見で回答頂いた内容を、「まちづくり」、「道路・公共交通」、「商業・観光」、「産業」、「子育て・教育・文化」、「医療・福祉」、「自然環境」、「防災・防犯」、「行財政」、「その他」の10分野別に分類した。なお、一つの意見に複数の分野を含んでいる場合は、分野ごとに分けて整理した。

以下より、その結果を記載する。

(1) 意見・要望集約

「商業・観光」に関する意見が64件と最も多く、次いで、「子育て・教育・文化」が58件、「まちづくり」が54件であった。



(2) 分野別の主な意見

分野別の主な意見については、以下に整理する。

分野	主な意見
まちづくり	・ 将来を担う子供たちのためのまちづくり ・ 統一的なコンセプトでまちづくり ・ 中心部だけでなく居住している人すべてにとって住みやすい環境 ・ 将来性のあるまちづくり ・ 高齢になっても社会とつながってられる環境づくり ・ わくわくするようなまちづくり ・ 散歩したくなる街づくり ・ 働きやすい、起業しやすい環境づくり ・ まちづくりの方向性をはっきりと示す ・ 幅広い年代やほかの地区から移り住んできた人など、いろいろな層からの意見を取り入れる
道路・公共交通	・ 大きな道路だけ整備されており、細い道などガタガタである ・ 自転車でも安全に市街地に行ける道路整備 ・ 安全に移動できる歩道や散策コースの整備 ・ 高齢者の危険運転が多い ・ 観光客集客及び活性化に向け交通の便を良くした方がいい ・ 公共交通（ＪＲ、バス）の利便性の向上、充実 ・ コミュニティバスなどの運行の充実 ・ 指宿駅の駐車場の整備 ・ 小学校の通学路に危ない歩道がある。ガードレールがあると安心
商業・観光	・ 指宿駅前のシャッター街を活かしてほしい ・ イベント事やおもてなし等、指宿駅前がにぎわう事が必要 ・ 観光客が訪れても、食事処、買い物する場所がなく、長く滞在できない ・ 他県の温泉地に比べ、お土産屋や飲食店等が少ない ・ 温泉以外の観光にも手をかけるべき ・ 今ある資源を活用できていない ・ もっと魅力的なまちになるように環境の整備や食の開発などをしてほしい ・ 買い物をする場所が少なく、鹿児島市内に出かけている ・ 中高生がもっと遊べるような施設が欲しい

分野	主な意見
	・コンビニやスーパー、大型商業施設が欲しい ・24時間買い物できる場所が欲しい ・山川に身近に買い物できる場所が少なすぎる。移動販売のお店などがあればいい ・空き店舗が利活用しやすくなれば若い人もチャレンジできる
産業	・野菜とか水産物、地元の物が安くていろんな物が買える市場のような場所があるといい ・大型の道の駅をつくって新しい観光地に ・働き場の確保に向けた企業誘致 ・若い世代が生涯住めるよう働く企業の誘致 ・大学の誘致 ・若者が農業に興味関心を持てるような策はないか
子育て・教育・文化	・子育てしやすい環境になってほしい ・公園がない地区もあるので、公園を増やしてほしい ・遊具の充実している公園が増えてほしい ・公園の遊具の見直し、整備をしてほしい ・子どもが遊べる施設や公園が少ない ・全天候型の遊具施設が欲しい ・指宿市は子育てしにくい市だと思う ・子育て支援も含めた教育施設の充実 ・公共施設（市民会館、公民館等）が利用しづらい ・児童館が欲しい ・夜間も見てくれる保育システムをつくってほしい ・働きたくても保育園に入れない ・学校の再編を早急に行う ・学校跡地を有効活用する
医療・福祉	・24時間対応してくれる小児科が必要 ・信頼できる病院ができてほしい ・高齢者の過ごす場の創出 ・福祉サービス従事者の人材確保などのサポート
自然環境	・歩いているとゴミが落ちているのを見かける ・ゴミ拾いボランティアなどを行うことはできないか ・野焼きが多すぎる ・悪臭の発生の防止に努めてほしい

分野	主な意見
防災・防犯	・避難所の充実と避難場所を増やしてほしい ・防災無線が聞き取りづらい、メールやLINE等の活用の検討 ・体が不自由な人の防災時のサポート ・避難情報の伝達方法の改善 ・道路脇などいろいろな場所の草払いを徹底してほしい ・雑草が伸び、道路にはみ出しているところが見られる ・田、畑の荒廃地が目立っている ・空き家や荒れ地等の整備、対策 ・ユースホテルの跡地をどうにかしてほしい ・街灯を増やしてほしい
行財政	・空き家を活用した移住の推進 ・移住者受け入れ環境の整備 ・何をしているのか不明慮、見える化市制にしてほしい ・県としっかり連携した取り組みのできる行政 ・リフォームの助成制度の充実 ・高齢者へのタクシーチケット配布等、タクシーを利用しやすい補助をできないか ・コロナ対策などで、飲食店への支援が偏っているように感じる ・住民票等をコンビニで受け取れる等利便性を向上してほしい ・市税のバランス（格差）の見直し ・SNSの活用など、指宿市の魅力の発信 ・高齢者に対する施策が目立ち、学生に優しくないと感じる
その他	・車が無いと不自由である ・将来、車を運転できなくなったときの生活が不安である ・コンパクトシティもいいが、郊外にも目を向けてほしい ・まちのバリアフリー化 等